

平成29年度
小郡市「市民みんなでサービスチェック」
報告書

平成30年2月

小郡市「市民みんなでサービスチェック」実施概要

1. 日時 平成29年12月3日(日) 14時30分 ~ 18時30分

2. 場所 総合保健福祉センター「あすてらす」 1階 多目的ホール

3. 参加委員(順不同、敬称略)

有識者

村上 隆英	中嶋 玲子	成清 一廣
久原 寛	吉塚 和美	堤 彰子
井手 修身	組坂 幸喜	

まちづくり協議会推薦者

河原 正治	秋田 宏司	赤岩 康治
谷口 正弘	森 勝則	伊藤 徹一
荒川 典博	行徳 義久	佐々木 敏文

他団体職員

鹿毛 晃之	野中 貴光	柴田 修
佐々木 大輔	手島 直樹	高木 英斗
斉田 藤孝	川村 九州生	

市民公募

釘本 和子	天本 知恵子	原口 はるみ
古賀 葵	田中 優子	日下 慈
藤山 龍朗	宮原 夕起子	鹿子島 大祐
荒巻 常幸	瀬戸口 沙耶	佐藤 源
田中 大海		

市職員

大津 洋一郎	黒岩 重彦	肥山 和之
山下 博文	山下 孝浩	
高田 寿賀子	神代 美紀	中村 律子

4. チェック対象課題

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業
 - (1) 体育協会法人化支援事業(P4)
 - (2) 在宅医療・介護連携支援事業・認知症総合支援事業(P5)
 - (3) 開発指定区域委託業務・立地適正化計画策定業務(P6)
 - (4) 庁舎建設基金積立事業(P7)
 - (5) 移住・定住促進事業(P8)
 - (6) 産後ケア・産後うつ対応及び子どもの発達等相談・支援事業(P9)
 - (7) 学校給食調理業務委託事業及び学校給食センター更新事業(P10)
 - (8) 私立認定こども園新設支援事業(P11)

2. 課題が見られる継続事業
 - (1) 協働のまちづくりセカンドステージ(共働)推進事業(P12)
 - (2) 校区公民館の進化・発展・活用事業(P13)
 - (3) 保育士人材確保対策事業(P14)
 - (4) 学校施設を活用した学童保育事業(P15)
 - (5) 市民音楽祭(P16)
 - (6) 三国幼稚園と小郡幼稚園のあり方とその対応(P17)
 - (7) ふるさと納税と観光協会の振興・発展事業(P18)
 - (8) 住宅用太陽光発電システム設置費補助事業(P19)

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業
 - (1) 横隈山古墳公園整備事業・埋蔵文化財センター大規模改修事業(P20)
 - (2) 校区公民館増改築・新設・改修事業(P21)
 - (3) 生涯学習センター・文化会館・野田宇太郎文学資料館改修・更新事業(P22)
 - (4) 学校施設改修等事業(P23)
 - (5) 公園整備・道路整備事業(P24)
 - (6) 市営住宅整備事業(P25)
 - (7) ため池・河川・用水路整備事業(P26)
 - (8) 総合体育館建設事業(P27)

4. 施策評価の総合評価において検証が必要と指摘された事業
 - (1) 施策評価の中で「つながるまち 小郡」アクションプランの進捗管理・評価の見直し(P28)
 - (2) コミュニティバスを公共施設巡りから生活支援を目的とする運行に見直し(P29)
 - (3) 防犯カメラ設置事業を民間企業の取組を活用(P30)
 - (4) 自主避難を含む避難所運営のあり方と災害時備蓄事業のあり方を見直し(P31)
 - (5) 「ふくおか電子自治体共同運営協議会」事業の活用とあり方を見直し(P32)
 - (6) 空き家対策事業及び空き家バンク事業の積極的な対応への見直し(P33)
 - (7) パブリシティと広報紙の特集、SNSによる情報提供の発信方法を見直し(P34)
 - (8) 職員研修のあり方と決算をベースに民間経営理念を取り入れた財政計画策定事務などの見直し(P35)

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度
 - (1) 小郡市立中学校の通学区域弾力化制度実施要綱(P36)
 - (2) 小郡市立学校施設開放規則(P37)
 - (3) 小郡市パブリック・コメント制度実施要綱(P38)
 - (4) 小郡市総合振興計画に関する規則(P39)
 - (5) 小郡市ふれあい安心コール事業実施要綱(P40)
 - (6) 小郡市敬老祝金支給規則(P41)
 - (7) 小郡市ファミリー・サポート・センター事業実施要綱(P42)
 - (8) 小郡市家庭児童相談室設置運営規則(P43)

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業
 - (1) 「つながるまち小郡」アクションプラン策定・推進事業(P44)
 - (2) 「市民みんなでサービスチェック」事業(P45)
 - (3) 「食と農の複合施設」設置事業(P46)
 - (4) 高齢者インフルエンザ予防接種事業(P47)
 - (5) 本部町との「友好のまち」締結事業(P48)
 - (6) 小郡ブランド青大豆「キヨミドリ」栽培・育成推進事業及び七夕の里活性化事業(P49)
 - (7) ふれあい運動会・成人式祝賀駅伝大会(P50)
 - (8) 審議会委員等の女性登用率40%達成目標仕組みづくり事業(P51)

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(1) 体育協会法人化支援事業

1	<p>法人化にあたり以下の4点を明確化する必要がある。</p> <p>①法人化のミッション・ビジョンを明確化するものがほしい。</p> <p>②スポーツのサービス、クオリティの向上のための事業内容及びその展開。</p> <p>③組織のマネジメントのためにはTOP・事務局長の人材が特に大事。スタッフを3名から6名に。</p> <p>④財源は指定管理だけではなく外貨(収入)を稼ぐという考えが必要。</p> <p>地域内外の人が来て交流して健康増進と共に来街者が来て消費が増え、まちが潤うというサイクルも必要。⇒スポーツツーリズムという概念の導入 (住みたくなるまち小郡のブランドイメージの確立)</p>
2	<p>体育協会法人化するという事は、地域スポーツ等が活発になりスポーツ振興が進んでいると解釈しています。しかし、法人化し数人の職員確保、これに対する業務が続くのか、また、発展していくのか。資金源としては市の補助金も必要だろうし慎重に検討してください。一般社団法人小郡市体育協会設立には財源等を含め明快な将来展望を見せていただきたい。</p>
3	<p>現状、スポーツ振興課の中で役割が明確になってないことが問題であり、スポーツ振興課・スポーツ推進委員会・体育協会の役割分担をはっきりさせていく事が目的のような気がします。体育協会の法人化は指定管理者として指定するために必要とは思いますが、本当に財源確保していけるのか、しっかり試算した上で支援する必要があると思います。</p>
4	<p>体育協会が大きな団体になっている。競技力向上のため設立には賛成です。指定管理事業になった時、クラブ活動の子どもたちに勝つためのスポーツ推進であってほしくないと思う。退職者の受け皿にならないようなシステム作りを。</p>
5	<p>法人化するにあたってどのような目標や指針があるのか、明確にすべきと思う。</p>
6	<p>小郡市のスポーツ振興のために各団体への支援が必要と思う。しっかりとした支援が出来るよう進めてもらいたい。</p>

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(2)在宅医療・介護連携支援事業・認知症総合支援事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・予防策の一環として地域で自治会が取組んでいるサロン等を調査し側面より支援願いたい。 ・家庭内医療クリニック(訪問介護医療)があるが市と連携して事業を進めていただきたい。 ・若い世代の介護、ヘルパーを育ててもらいたい。将来誰が介護してくれるのか？
2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士がだんだん減っているので今後のサービスがこれ以上できるのか ・認知症になる前の健康体操及び認知症カフェを積極的に開いたらよいのではないかと。参加できるように校区公民館が良いと思う。介護士不足が心配である。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後介護を必要とする方や認知症の方は増えるものと思いますので、介護予防、認知症予防のソフト面の取り組みも大切になってくると思います。 ・在宅医療、介護連携推進にあたっては引き続き連携をよろしくお願いします。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士の人材確保をどう進めていくのか 養成学校は生徒減で、定員割れで閉鎖が続いている ・医療との連携は必要だけど、一人暮らしの人が受け入れていくのか ・在宅医療の範囲がどこまで可能か。寝たきりや外出できない人ひとりで身の回りのことができない人が受け入れてくれるのか ・認知症の一人暮らしをどう対応するのか
5	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療、介護連携支援事業 新しい支援事業の「形」を地域に示し、地域の課題を探ることが先決ではないのかと思う。地域住民の理解を得ることも重要なので、十分な周知をお願いしたい。 ・認知症総合支援事業 認知症そのものの理解は以前に比べると大分進んでいるが、把握自体が難しい部分でもある。 今度開発される「認知症カフェ」の活用と結果を踏まえて他の地域への展開と周知が重要になってくると思う。

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(3) 開発指定区域委託業務・立地適正化計画策定業務

1	<ul style="list-style-type: none">・人口減に伴い高齢者に配慮したコンパクトなまちづくりをしっかりとお願いしたい。・コミュニティバス・自治会バス・ドアタクシーをフル活用し、公平を基本とした施策対応を望みます。・移動販売活用案は、検討価値が充分あると思います。
2	<ul style="list-style-type: none">・高齢化による公共交通の手段、都市は栄えても外に出れない高齢者をどうするのか(買い物など)・指定区域申請から3年かかる。
3	<ul style="list-style-type: none">・立地適正化計画を策定し、地域生活拠点を決めて、必要な機能や居住地域を誘導していくことは重要。しかしながら、地域生活拠点や居住誘導エリアにない方は不安に思われるので、丁寧な説明が必要。
4	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティバス、デマンド交通ではなく、高齢化が進めばドアtoドアの対応が必要となるのではないかと。・歩いていける生活圏の中でお店や(食料品)サービス店の立地を進める。・他業種間の連携も視野に関係課と調整して、補助制度等を考える。
5	<ul style="list-style-type: none">・市街化区域でのコンパクトなまちづくり、市街化調整区域内での区域指定を行うことにより、バランスのとれた地域の発展を誘導していただきたいと思います。計画のスケジュールに従って進めてほしい。

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(4) 庁舎建設基金積立事業

1	<ul style="list-style-type: none">・総事業費は40億円でいいのか。・建物は現庁舎の1.2倍程度とし、新規土地の買収をする計画であるので、現敷地はいかにするののか。・活用方法等を組み込んで、今後の財政計画を検討すべきである。
2	<ul style="list-style-type: none">・最終的に庁舎の建設は必要であると思われる。・積立事業を継続していただき、素晴らしい庁舎が完成することを市民として望みます。ただし、現庁舎のバリアフリー化等の経費もかかるので、建設年度の前倒しも検討すべき。
3	<ul style="list-style-type: none">・財政状況等も考えると今すぐ庁舎建設とはいかないと思うが、10年後のことを考えると、庁舎建設をイメージできる市民の懇談会等を行い、見透しのもてる計画が必要ではないでしょうか。・また、市民の利便性を考えたフロア構成、課等の配置など、今から考えるべきことも多いと思います。
4	<ul style="list-style-type: none">・建設しなおすことは、決定したと分かったが、いつからするのかなどあいまいな所が多かった。・また、30億の借金のことについては一般市民にも伝えることは大切だと思う。
5	<ul style="list-style-type: none">・生産人口が減る時代、今後も市の財政に関心を持っていこうと思います。・財政は市役所だけのものではなく、市民のものでありますので、財政シュミレーションゲームを通して、関心を高めていって頂けたらと思います。(ちなみに福岡市の詳しい方は、いつでも行きまますよと言って下さっていますので、少しでも早い小郡市での実現を楽しみにしております。)
6	<ul style="list-style-type: none">・10年後を目標に庁舎を建設するに当たり、一定事業の計画をシュミレートして、その中で財源である基金積立を考えていくべきである。・基金以外の収入見込財源も併せて検討していく必要がある。
7	<ul style="list-style-type: none">・現状を見れば、庁舎の建て替えはやむを得ないと思われるので、再度、財政計画を見直したうえで、早期に着工できるようにすべきと思われる。・建設計画(庁舎規模、駐車場規模)、財政計画等について、前広に公聴会等を開いて市民の意見を聞き、意見を十分考慮した計画が必要と思われる。

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(5) 移住・定住促進事業

1	<p>・全国の総人口が減っている中での、自治体間の競争である。しかし、この競争がうまく地方都市の活性化につなげていければ良いと思う。</p> <p>・各自治体のアイデア独自性があれば、地方経済を活性化するのでは。その政策・施策が重要。</p>
2	<p>・交通の便を生かして、子育て世代を対象に事業を展開するととてもたのしく感じました。ただ、やはり高齢化率の高い所も候補に入れて欲しいと思います。福岡市内に住む若い世代が興味を示すオシャレな田舎暮らしができると楽しい小郡になれるかも。</p>
3	<p>・総合計画の中のP190ずっと住み続け、いずれは別の市への住民が多い。ボランティアは住民の半数がしたくない。暗い(ピンクでアピール)</p> <p>①住民の参加意識を高める。</p> <p>②近隣の市町村との競争に勝つ必要あり。</p> <p>③比較一覧表を作ったらどうか。(小郡市と他自治体のそれぞれのメリット、通勤時間・手段など)④要は施策だろう。安心、得する、近い</p> <p>ピンクのハッピーは日常市役所で交代で着用したらどうか。</p>

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(6)産後ケア・産後うつ対応及び子どもの発達等相談・支援事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談窓口・ワンストップ化(0～18歳)との協力連携を充実させて下さい(組織改革)。 ・HPで支援が必要な方がたどり着けない(充実→改善) ・発達障害を疑うグレーゾーンの児童(乳幼児)をいかに早期発見、早期支援できるかが鍵。現在の縦割り行政のすき間に落ちる要支援者を生まないための開かれた相談窓口。たらい回しではなく、きめ細やかな連携が必要。保健師、専門職だけでなく、一般職員への相互研修等(部内でも部外でも)。大規模自治体ではできない起動力をPRへ。 ・産後ケア助成7回まで 7,000円→回数減による自己負担軽減を検討して欲しい。(H30年1月～利用実績を踏まえて)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭児童相談室と同じく、ワンストップでの支援が必要ではないか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・産後ケアが必要な方や、うつ状態の方が自ら救いを求めてこれない人達にも救いの手が差しのべられるような仕組み作りも必要かと感じます。 ・産後ケアの自己負担金については、サービス回数を減らして1回の負担金を減らすことも考えて欲しいです。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦検診、産後ケア、子育て支援(相談)と一貫した「子どもを安心して産み育てられる小郡」施策をアピールしてほしい。1回7,000円のショートステイは自己負担が高すぎると思われる。金額と回数の折り合いをつけ、利用をしやすくすべきではとの意見に賛成。核家族化が進む中、1人で孤立した子育てに新米ママは大変だ。しっかり支援してほしい。

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(7) 学校給食調理業務委託事業及び学校給食センター更新事業

1	<ul style="list-style-type: none">・給食センターの建替も含め、自校式給食施設の建設民間委託等の方針は理解できます。ただ、子どもたちの食に関する件であり、安心安全な給食体制をスピード感を持ったスケジュール対応を望みます。
2	<ul style="list-style-type: none">・将来を担う子どもたちであるので決まった以上はできるだけスピード感を持った方がいい。ただし、安全安心で(急ぐと危険な面もあるけど)
3	<ul style="list-style-type: none">・学校給食業務は永続的な業務であり、また地域経済への貢献の観点から地場調理業者の育成が重要。・給食施設の整備は多額の費用を要することから優先順位をつけて計画的に整備していくことが必要。
4	<ul style="list-style-type: none">・小学校の自校方式は続けてほしい。・中学校のセンター建替は予算のこともあると思うが、早急に取り組んでほしい。・財政面のこともありますが、新センターは余裕をもって建設され、職員のストレスが生じない施設を目指してほしい。
5	<ul style="list-style-type: none">・学校給食調理業務委託については民間委託の状況を十分に検討し、改善も含めて今後の方針を決定されるべきだと思います。・学校給食センター更新についてはPFI方式も含め、十分な検討を行い方針決定すべきだと思います。場所等についても十分な検討をお願いしたい。

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(8) 私立認定子ども園新設支援事業

1	<p>・本事業の目的は、保護者の利便性向上の観点からこども園新設を支援するという事の様だが、現在の待機児童100名超という現状をふまえ、移行を積極的に支援し、待機児童解消の一つの対策として実施できないか？財政的な負担や人員確保難の課題は大きいですが、待機児童解消に向けて複数の事業を効果的に組み合わせたい。</p>
2	<p>・子育ての枠を超え、小都市の人口増施策として取り組んでください。</p>
3	<p>・保護者の利便性が上がるのであれば積極的に移行を推奨していただきたい。 ・待機児童解消の為、公立幼稚園の認定こども園への移行も検討すべきでは。</p>
4	<p>・保育園、幼稚園、認定こども園、すべてにメリット・デメリットがあると思うが、定員の枠、職員配置基準など様々な課題を各園や担当部署だけではなく市全体として戦略的に考える必要があるのではないか。</p>
5	<p>・子育て世代のニーズをとらえて5年、10年先を見据えての計画をお願いします。今以上に共働きが増え、長時間労働の母親も増える可能性もありますので。</p>
6	<p>・認定こども園への移行で定員を増やしても、保育士の数を確保しなければならないので、保育士人材確保対策の進み具合を見ながら行っていく必要もある。 ・待機児童解消の施策としては必要とは思いますが、財政的な面も充分検討したうえで行ってほしい。</p>

2. 課題がみられる継続事業

(1) 協働のまちづくりセカンドステージ(共働)推進事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・行政区長制度存続 区長委嘱制度に対する手当・・・区長手当 ・まち協 活動・・・共助・・・ボランティア ・校区独自の将来像を作り、活動方針を。 ・必置部会の役目は終了。 青少年育成→青少年育成市民会議 環境衛生→衛連 健康福祉→社協(ふれあいネットワーク) 早期移行へと検討すべきである。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・役員頼み、やらされ感、取組が広がらないなど課題も多いが、やりがいのある事業だと思う。 ・セカンドステージは人材の発掘、育成を中心に取り組んでいただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・区長制度とまちづくりの問題。 ・人材の育成の問題。 ・地域まちづくり計画の作成。 ・まちづくりの認知 <p>など課題も多くて、対応は一步一步進んでいかなければならないでしょう。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に関しては、情報発信が重要になってくると思います。 ・私も今回、まちづくり協会というものを初めて知ったのもっとたくさんの人に知ってもらおうことが大切だと思いました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・見直し、棚おろしのよい機会になりますように。 ・人材育成といいます、それ以前に人がいません。若者が住み続け子育てしやすい都市計画と農業の在り方を私も今後も考え続けたいと思います。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みの中で、様々な問題が浮き彫りにされている。特に人材育成については難しい課題である。地域課題解決のために行う事業については、担い手のやり甲斐や役割を含め積極的参加が望めるような組織体制を築き、人材確保に努めて頂きたい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・区長制度との役割分担を再度見直していくべきと思われる。 ・「協働のまちづくり」の必置部会については、再度見直しを行い、今後の進め方を「まちづくり推進連絡会議」「まちづくり会議」「区長会」に対し、前広に説明し理解をし得るようにすべきと思われる。 ・少子高齢化が進んでいる中、人材確保が一番難しい。区の役員の人選にも困窮する校区がある状況で、まち協の役員になる者がいない。今後はさらに、人選が難しくなる可能性があり、最も重要な課題であると思われる。 ・「協働のまちづくり」の校区公民館と「共働のまちづくり」に伴う校区公民館のコミュニティー化との役割の違い等をきちんと整理し、説明していく必要があると思われる。 ・校区の「将来像」を作り上げるのは、非常に難しい。各自治区で「将来像」という意見をまとめるのに大きな力(統率力、努力等々)が必要な作業となり、今までの「区の役員」「まち協の役員」だけでは難しいと思われる。(市の協力が不可欠)

2. 課題がみられる継続事業

(2) 校区公民館の進化・発展・活用事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりのセカンドステージへ移行する活動の拠点であり、計画通りに進める事。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営に関しては、地元協議会等での運営を検討するべきだと思う。まち協の活動拠点ということなら猶更。 ・証明書の発行はコストがかかり過ぎのよう感じた。 ・コンビニ交付もコストはかかると思うが、利便性は良いのでは。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センター、校区公民館、自治公民館の役割を、きちんと整理した上で(役割分担の明確化)、校区公民館をコミュニティセンターとしての機能をもたせることが必要だと思います。メリットの大きい改革が必要かと。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターへ移行することでのメリット・デメリットはよく理解できました。 ・証明書発行についてはもう少し検討していく必要があるのではないかと思います。 ・財政状況を考えたうえで決めていくことが大切だと思います。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏が充実することは嬉しく思っております。 ・何かが変わることはエネルギーを伴うので、地域の方と一緒にアイデアを出し合いながら少しずつ、より良く変えていけたらいいと思います。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・校区公民館のコミュニティセンター化については、今後展開される「共働のまちづくり」セカンドステージへつながるように、営利事業等の取り組み、人的体制の整備を進めて欲しい。 ・証明書等の発行については、コンビニ交付と比較し、費用対効果も含め、充分検討して欲しい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は校区公民館と自治公民館の違いをよく知らない。行政の立場からもっと広報していく必要があると思われる。ましてや、校区公民館のコミュニティー化を推進していくのであれば尚更のことと思われる。 ・校区公民館のコミュニティー化は、校区の「まち協」の進展の状況をよく把握したうえで、「共働」へ移行できる校区を見極めて、コミュニティー化を進めていくべきだと思う。もちろん、即移行が可能な校区は、早急にコミュニティー化すべき。(各校区の協働のまちづくり協議会の努力が必要)

2. 課題がみられる継続事業

(3) 保育士人材確保対策事業

1	<p>・事業開始時の保育士採用予定人数が24名であることを考えると、本事業(3事業)の成果としては十分な補充が出来ていないが、数人ずつの確保でも必要な事業であるため継続していただきたい。ただし、各事業がより成果を高められるよう民間企業のリクルート方法等も参考に事業内容の充実を図っていただきたい。いわゆる旧インターンの様な取組をしてはどうか。</p>
2	<p>・子育ての枠を超え、小都市の人口増施策として取り組んでください。</p>
3	<p>・定員管理計画によらない正規職員増を望みます。</p>
4	<p>・保育士の人材不足に関して1年程前から放課後デイサービスからの求人依頼がとて増えていると感じているが、小郡市内では影響はないのかと気になった。</p>
5	<p>・待つ姿勢から、確保、絶対に小郡市内で就職してもらうんだという気持ちで出向いて行って欲しいです。</p>
6	<p>・研修やガイダンスに参加してくれた人達からアンケート等でもっと情報が取れないでしょうか。その中から有効な対策が考えられるのではないかと思います。保育士確保については、工夫を重ねながら継続して続けていく必要があると考えます。</p>

2. 課題がみられる継続事業

(4) 学校施設を活用した学童保育事業

1	<p>・学童保育所はイベントで過ごすところではない。毎日の日課を子どもの発達に沿って支援していく場。人間関係やケンカの仕方等々、生活の場の知恵を身につけていく場、知力・学力の育成の場でなく、健全な生活力を身につけていく場であることを現場の支援員さんと行政の方が共にめざしてほしい。</p> <p>※勉強させて力を上げるためのプログラムは放課後の子どもには不適切であると思う。</p>
2	<p>・大体、小学校内に設置されているので学校施設と学校側の負担を十分考慮する必要がある。また、指導員の確保が必要。</p> <p>・中央政治で、待機児童や学童保育等の対応を確実に支援していかないと、増々、世の中が少子化に進んでしまうと思います。</p>
3	<p>・保護者会に運営を委託しているとのことですが、保護者会と指導員の関係について課題があれば教えて欲しい。例えば、なかなかお互いに言いたいことが言えず、疑心暗鬼になっている等の問題はないでしょうか？</p>
4	<p>・学童保育所がプレハブ建物になっているのですが、空調設備はどうなっているのか？</p> <p>・保護者負担金について、ひとり親世帯、非課税世帯等についての助成はあるのか？（行かせたくても負担金を出せない世帯があるのではないか？）</p> <p>・支援員資格の取得についても、教えて欲しい</p>

2. 課題がみられる継続事業

(5) 市民音楽祭

1	<p>・3つのイベントについては、各イベントに市民側・参加側の満足度やニーズを成果指標として設ける等したほうが良い。FBを見るとミュージカルカンパニーが活動的なので、実行委員として4事業をより連携させていくことを考えた方が良い。</p>
2	<p>・各イベントは市民に認知されてる様だが、まだまだ知名度は低いと思われます。事業の目的・ねらい・成果等の広報宣伝活動をもっと多くすべきではないかと思われます。現在行われている各イベントは音楽大好きの皆様に認知されルーティン化されているのは実行委員会皆様の努力のたまものとおもいます。良いことではないでしょうか。</p>
3	<p>・音楽は人と心に感動が生まれ、人とまちが元気になる効果があるが、小都市の魅力として広く伝えること、イメージ戦略につながっていない。26年間アーティストが生まれていない点は趣味で終わっていないか。</p>

2. 課題がみられる継続事業

(6) 三国幼稚園と小郡幼稚園のあり方とその対応

1	<ul style="list-style-type: none">・待機児童が103人いるという状況は、H27～28に議論(審議会)された当時にはなかったはず。保育園待機児童の問題と幼稚園の定員割れの課題は、時代背景の変化に伴う行政ニーズの変化であり、認定こども園などの条件整備によって実現可能な道があるなら、再検討する価値があると思う。市立幼稚園は市内の方のみ入園できる条件で3年保育や預かり保育の可能性を検証してはどうか？利用時間増などに伴う料金改定は必要だと思うが、慎重に検討する必要がある。再検討する場合、H31年度～スケジュールに無理がないよう配慮して欲しい。
2	<ul style="list-style-type: none">・傍聴人が多い理由は何でしょうか。・地域住民・保護者の意見を聞くことは重要である。しかし、市の運営や今後の財政も含めた住民への理解も必要では。
3	<ul style="list-style-type: none">・三国幼稚園も預かり保育と3年保育を実施できれば、園児数も増える可能性があると思います。
4	<ul style="list-style-type: none">・保護者の意見と意向(存続したら通園させるのか)を再度聞くべき。・経済効率化の為なら行政サービスの低下はすべきではないと思う。・地元の小学校に通学するのなら、地元の幼稚園に行かせたいとの親もおられる。・認定こども園の取り組みを検討して欲しい。

2. 課題がみられる継続事業

(7) ふるさと納税と観光協会の振興・発展事業

1	・観光協会がこの事業をやるという自主性が乏しいと思われる。手数料を含めて目標を設定して出来高でリターンを得る仕組みにしないと返礼品類は委託金では成果がでない伸びは難しい。
2	・残念ながら現在の小郡市には観光の目玉に成るものがありません。自慢できる知名度の高い物産、特産品も有りませんが、ふるさと納税を増やすためにはお礼の品を充実しなければなりません。また小郡市に生まれ、育ち他の地方に出て行かれた方、小郡市が故郷です。この様な方々に小郡市の発展していく姿を伝え、ふるさと納税をPRしていくべきだと感じます。
3	・返礼品の種類を増やす為に特産品・サービス等の発掘が必要。ポータルサイトを増やす事で実績増が期待できるが根本的には魅力ある返礼品が必要となるのでは。返礼品を見る限り観光協会よりも商工会の方がより委託先としては適当ではないか。
4	・寄付を活用した返礼品をもらわない制度を小郡市の未来を支えてくれる子供支援(例えば給食費など)。フェイスブックなどの利用、市が主体となってPR
5	・食べ物ではない物を返礼品として出すべきだと思う。
6	・ふるさと納税と小郡市の観光を考えるとしっかりとしたブランド力のある商品が必要だと思います。今後の取組に期待します。

2. 課題がみられる継続事業

(8) 住宅用太陽光発電システム設置費補助事業

1	<ul style="list-style-type: none">・補助金の使い方をもっと検討してほしい。「設置者の所得向上」は理解できるが、未設置者（設置したくてもできる能力が無い）の立場も考慮すべきかと思う。設置者は補助金がなくても設置能力が十分な人が大半だと思う。補助金があるから設置するという人は少ないと思う。
2	<ul style="list-style-type: none">・経済的余裕のある人とない人との差別を何らかでしないといけないのではないか。・付けようと思っても出来ない人、また、付けようとしても高齢者が多く、採算がとれるまでには10年近くかかるから出来ない人がある。新築に期待する。
3	<ul style="list-style-type: none">・FIT制度の今後の動向を見据え、太陽光発電以外の自立分散型エネルギーシステム導入を促進する支援制度（エネファーム、蓄電池等）の可能性を検討することも必要だと思います。
4	<ul style="list-style-type: none">・新規住民へのアピール効果はあると思う。・今後も続けてほしい。・小規模のオール売電（個人用）も考えたらどうか。・災害時の電力維持（家用）にもつながる。我家では、地下水ポンプの動力として考えている。
5	<ul style="list-style-type: none">・温室効果ガス削減は重要な環境政策だと思います。再生可能エネルギーの固定価格買取制度の価格設定が当初は高かったため太陽光発電設備の設置が進みましたが、現在ではそれほどではないでしょう。今後も買取制度の価格設定の動向を踏まえて制度設計される様にして下さい。

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(1) 横隈山古墳公園整備事業・埋蔵文化財センター大規模改修事業

1	<p>・5世紀頃の古墳ということで大変貴重ということは理解できますが、土砂災害特別警戒区域に指定され、人命に関わる点より保存を続けるべきか将来の小都市にとって本当に大切なのかを十分検討する必要があると思う。</p>
2	<p>・地元の人達の協力を得てできるだけすること。 ・自分の村は自分で守るの精神で取り組むこと。 ・協働のまちづくり等あるのでその辺の協力を得てすることで絶対できると私は思う。</p>
3	<p>・久留米市においても文化財が傾斜地や土砂災害危険区域にあるものもあり、文化財の保護は課題 ・文化財の活用の面で、広域で連携できる部分もあるのではないか、筑後国府跡等。</p>
4	<p>・丘陵地から切り出してあるので、法面の崩落は予想できたと思うが、防止工事には多額の費用を要する。市の財政だけでなくインターネット等で全国に呼びかけて費用を募ること等を考えてはどうか。 ・センター改修は部分面ではなく計画を立てて大規模改修をした方が最終的に安くなるのでは？</p>
5	<p>・横隈山古墳公園整備事業 周辺が住宅地ということもあり早急な対応が必要と思われるので、地元との十分な協議の上、早期の着手をお願いしたいと思う。 ・埋蔵文化財調査センター大規模改修事業 来場者への安全対策が最優先であるので改修においてもこの点を考慮して進めていただきたい。なお、改修中は一時休館も止むを得ないものと思う。</p>

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(2) 校区公民館増改築・新設・改修事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくり事業の拠点としてのコミュニティセンター化することが必要であり、早期の対応を求める。 ・特に、のぞみがおか生楽館の場合、その方向性を検討し、早期の結論を出すべき。 ・財源については、補助活用事業等の利用をも検討に値する。 ・協働のまちづくり事業では、人の集まる場所づくり(人材発掘へつながる)、駐車場・地産地消のスペース等が必要であり、事業を早期に。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりの拠点施設として活用できるよう、計画的に事業を進めていただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・校区公民館からコミュニティセンターへ移行した場合、事務室やボランティア室、市民が集まれる多目的スペース等、これまでと違った施設設備が必要になってくるのではないのでしょうか。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のことをきちんと見据えて建築計画を立てていくべきと思いました。 ・空き教室の利用なども含めて考えるともっと良いと考えました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的に判断しながら、学校他、地域の空家等を共用、併用し徒歩圏の充実を実現していけたらと思います。(小・中学校の図書館も地域市民に開いて頂けたらと願います。)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの校区公民館の改修等については、平成30年度より個別計画の策定を予定しているが、補助事業等の活用を図り、財源も含めて実現可能な計画の策定を希望する。 ・また、コミュニティセンターとしての施設整備については、利用目的等を精査して施設整備内容を検討して欲しい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・増築等を実施する際は、築年数、構造等を考慮して、今後の増改築等の計画(実施の順序)を前広に開示していくべきだと思われる。 ・コミュニティ化を推進するのであれば、「共働のまちづくり」への移行を十分踏まえた増改修等にすべきと思われる。 例えば、 <ul style="list-style-type: none"> ・事務室の広さ(執務人員の増?) ・営業ができるスペース(売店?、地産地消(野菜等)販売所?) ・災害時用の倉庫(救急用品、食料品、毛布、復旧用機材)等

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(3) 生涯学習センター・文化会館・野田宇太郎文学資料館改修・更新事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは耐震レベルの確認 ・野田宇太郎生誕祭を見て、聴いて、感じる祭りにしていく。 ・野田宇太郎記念の日には、和服で参加した方には歌集のプレゼント。 ・参加した子どもたちが将来までも郷土の誇りとして発信できる様な学習の機会をもつ。 ・全国規模の詩歌の募集。 ・市職員さん、野田宇太郎をご存じですか？愛唱してますか？
2	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事のスケジュールはH30～H32年度に実施するとのことですが、そのスケジュールで大丈夫ですか？24年(生涯学習センター)～30年(文化会館)経過している内容を聞きますと、外構にヒビ、資料館は気密性不十分、カビ、害虫の侵入等、貴重な資料を展示できる環境ではないとの報告ですが、今まで、どのような管理をしていたのですか？資料館、図書館に行く魅力がない。 ・耐震強度がどの位の数値を想定して大丈夫なのか教えてほしい。資料館、図書館、文化大ホール、そして生涯学習センター、行事のある時は数千人が集まります。もし、有事が発生した場合、老朽化していたのでは済みません。小都市発展のためには、会館行事は必須です。何が何でも、早々に予算を計上していただくよう強いプッシュが必要と思います。(ちなみに、のぞみが丘小学校区の防災訓練は震度7を想定して実施している)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・箱物の維持管理の大変さはよくわかります。是非、稼ぐ施設となるよう、民間施設や民間とのタッグを組んで頑張ってもらいたいです。 例えば、同じような施設が周辺自治体に揃っています。それは仕方がないとしても、維持管理にかかる費用を周辺自治体で一括で削減できないかと日頃思っています。具体的にはエレベーター管理委託料や施設運営委託料等を複数の自治体が一括で契約業者を決定するなど、1円でも削減する取り組みが必要と考えます。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・野田宇太郎については2～3月に1回、特別展を行っており、毎月テーマを決めて1か月ごとに展示を変えているということだが、PRはしているのか？ ・文化会館は600人ぐらいしか入らないとのことだが、今後どうするのか？(建て替え等)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税増税などを機に、全庁的な使用料等の見直しが必要ではないかと感じる。 ・ふるさと納税の目的別を利用する場合、返礼品もコーヒーに関するものなど工夫がファンを呼び込むのではないかと考える。

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(4) 学校施設改修等事業

1	<ul style="list-style-type: none">・長寿命化改修も当然であるが、改修事業の優先順位には十分な配慮がなされるべきである。・特に地域、生徒等の意見を考慮すること。
2	<ul style="list-style-type: none">・今後策定される長寿命化計画に沿って、長期的ビジョンを持って事業を進めていただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none">・学校の大規模改修は、多くの財源を必要とするため、なかなか難しい課題も多いと思います。・しかし、これからの学校を考える時、子どもたちの能力を伸ばすため、IT化等への備品設備の検討や地域人材の活用のためのエレベーターの設置、小中一貫校の建設等を考えていくことも大切だと思います。
4	<ul style="list-style-type: none">・エレベーターやエアコンについては少しずつ改善されていることが分かりました。・トイレの洋式化のことについてアンケートをとっていると聞き、その方法は別のことでも活かしていけるのではないかと思います。
5	<ul style="list-style-type: none">・施設利用者の声をきき、現状を把握しながら計画を進められておられることに安心しました。トイレは日常のことですので、不自由のないようによろしくお願いします。・エレベーターは予算次第かと思いますが、将来を見すえた、地域の拠点としての学校建設・改修等をよろしくお願いします。
6	<ul style="list-style-type: none">・学校施設改修事業については、時代に対応した内容(トイレの洋式化など)で進めていただきたい。・また、学校や児童・生徒の考え方もしっかりと組み入れて(アンケートの実施など)取り組んで欲しい。
7	<ul style="list-style-type: none">・学校施設の改修は、将来を担う子ども達の学校生活環境を整えるものであり、財政状況を見ながら、今後も推進すべきと思われる。・EVの設置、改修等については、教育現場の意見、生徒達の意見、市民の意見等を十分に反映した改修にすべきであると思われる。また、長期計画の提示や市民の意見等を取り入れることにより、地域住民にも安心感を与えるものと思われる。

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(5) 公園整備・道路整備事業

1	<ul style="list-style-type: none">・公園の整備については、多様な市民が利用できるものとして行われることが望ましい。障がいがある人、高齢者、乳幼児等が安心してすごせること。又、その取組みを広報して新たに「観光スポット」という考えに幅をもたせることも重要と考える。・道路の整備は、まちづくりであるとの考えのもとに市民参画のもとで実施し、整備完了後もコミュニティの活性化につなげていく視点も大切にしたいと思う。
2	<ul style="list-style-type: none">・公園整備(清掃等)について行政区として苦労している。(清掃の委託は受けているが)・公園の遊具の管理について・市道下町西福童16号線の延伸計画について
3	<ul style="list-style-type: none">・公園の維持・整備計画、道路の建設及び維持計画については、課題の把握と対処法について、しっかりとしたものがあると思います。あとは財源の裏付けだけだと思います。・地域住民の満足度が上がるよう、ご努力していただければと思います。
4	<p>①どんな公園にしたいのかイメージはあるのか？(意見です)</p> <p>②道路の整備について、どうしてここに新しい道路が…？という道路もある。利用必須の道路なのか？…。説明がほしい…。</p> <p>(具体的には、どことは言えないが、端間辺りに新しい道路が出来たが、車はあまり走ってない)</p> <p>公園の入り口にある石のポールは何のためか？車の出入を防ぐためとは聞きました。でも、ベビーカーもシルバーカーも、あの石のポールがあると入りにくい。</p>
5	<ul style="list-style-type: none">・公園の改修及び道路等の補修については、計画を立てて年次的に補修すべきである。

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(6) 市営住宅整備事業

1	<ul style="list-style-type: none">・公営住宅に求められるものは、生活困窮者のみを対象とするのではなく、そこで生活する市民がコミュニティの一員として地域参画していく視点をもって建替えが行われるべきと考える。・生活困窮者の増加が見込まれるという現状に対する解決策を提示すべきと考える。・市民生活の居・食・住にかかわる問題についての保障を考える総合的な視点から、今後の市営住宅問題を考える必要があるであろう。・建替えにあたっては、居住者の意見を十分に把握して、生活保障の視点から取り組む必要がある。
2	<ul style="list-style-type: none">・市営住宅の建替えは、現在設置場所に建替えるか。
3	<ul style="list-style-type: none">・950戸は現実的ではないが、現状(224戸)は住宅施策上、乏しい為、できるだけ「現状維持」のなかで建替えのタイミング時の`時代に合った間取りの変更`などの工夫で少しでも戸数UPしたい。⇒現実的な判断だと思います。
4	<ul style="list-style-type: none">①必要戸数が現在の224戸からH52年に950戸に増えた根拠は？②市営住宅のあり方について今後の取り組みとしてどう考えているか。昭和、平成と家族構成が変化(高齢者の独居etc)③すべての市営住宅がバリアフリーとするのか？ <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none">・必要な市民がフリーで申し込めるシステムに変えていくのも必要では、例えばニート、ひきこもりなど色々な人達も対象にしてはどうだろうか。
5	<ul style="list-style-type: none">・将来予測を正確なものにして、計画を立てるべきではないか。

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(7)ため池・河川・用水路整備事業

1	<p>・現在の市の事業計画でいいですが、特に自然災害防止の視点より、しっかりとした優先順位のもと事業遂行願いたい。</p>
2	<p>・生命にかかわる物件から最優先せよ。 ・ため池の多さに驚く。出来る限りため池を少なくする。 ・堰はラバー堰にせよ。維持管理が容易なものにせよ。</p>
3	<p>・ため池、用水路の整備は、多額の整備費がかかる事から、国・県の補助事業を活用し、緊急性、公平性、営農活動状況等を考慮しながら年次計画的な整備を進めていくことが必要。そのための予算確保の国・県への要望活動を進めていくことも必要。 ・多面的機能支払交付金を活用するなど、地域農業者と連携しながら、農業用施設の機能保全を図っていく取り組みを合わせて行うことも必要ではないか。</p>
4	<p>・堰の改修については、可動堰だけでなく、旧来の石積みやラバー式等管理費の少ない方式を導入することも必要と思う。 ・ため池の改修は、今後の必要性等を地域と協議し、ポンプ場の増設等で対応ができないのか。 ・揚水機の管理費は、土地改良区では経費に織り込んでいるが、受益者の負担はどうなっているのか。 ・都市化に伴い、ため池への流れ込み量が増大している事は考えられないか。</p>
5	<p>・ため池等の農業水利施設の多くは、単に農業者のみの利便施設ではなく、多くの市民にとっても自然や風景などの有益な景観を提供するものでもあると思う。 ・課題でも触れられているように改修には、多大な費用と時間が必要と思われるので、関係者間の十分な理解を得ながら、年次計画的な進捗を行ってほしいと思います。</p>

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(8) 総合体育館建設事業

1	<ul style="list-style-type: none">・体育館施設のコンセプト・目標・目的を明確化する。・建設ハードの投資額40億円の投資効果と運営費オペレーションを明確化する。・利用者数・利用形態・スポーツ競技を設定する。⇒KRIの設定・よくよく検討会で議論すること。・ソフト(オペレーション、販促、運営形態)をきっちり策定すること。
2	<p>・近隣の体育施設を把握し建設予定の総合体育館はどの程度の施設が必要かその根拠、また、完成後の運営計画を示して頂きたい。市民の利用予測、県単位の公式スポーツ大会等が開けるような施設にするのか、これらにより建設コストが大きく左右されます。判断に悩まされる場所です。意見書の質問に述べましたが小郡市は非常に交通アクセスの良い位置にあります。この地の利を活かして大きな大会も誘致可能かと思えます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none">・関係団体や利用者の意見聴取されると要望は増え続け、規模・設備が過大になる傾向があると思えます。今後、人口は減少していくことも考慮し世代間負担も良く考え、規模が大きすぎないように注意する必要があると思えます。慎重な規模決定が必要と思えます。・現段階で維持管理費が試算されていないのは問題ではないでしょうか。重要な判断材料となるはずですが。
4	<p>・財源を第1に考えるのか、市民の健康づくりと交流を支える体育館にするのか、と意見があるが市民の健康づくりに視点を合わせてほしい。</p>
5	<p>・市の借金となり、苦しい思いをしなければならないのかと思う。</p>
6	<p>・総合体育館はスポーツ施設としての役割もありますが、災害時においては小郡市で重要な避難施設になると考えます。そのための内部施設や設置場所の検討もお願いします。</p>

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(1) 施策評価の中で「つながるまち 小郡」アクションプランの進捗管理・評価の見直し

1	・アクションプランで整理される内容も最終的には事務事業レベルまでおとされると思われるので基礎的な評価は現行の行政評価システムを活用して実施出来ると考える。ただし、アクションプランのマニフェスト実施計画としての性格上、内部評価だけでなく定期的な外部評価の機会も設けていただきたい。
2	・評価は外部、内部一本ずつで良いのでは。
3	・具体的な事が決まっていないため、チェックできない。1年後に議題にあげてほしい。
4	・行政の方も迷いながらも評価をして再計画に反映したいと考えている事が伝わってきた。外部評価の外部を具体的にどう設定するのかでも評価は変わるのではないかと感じる。評価の信頼性、妥当性を担保するために、より良い評価をされる事を期待する。
5	・「外部の視点の導入」については特に考えていただきたい。
6	・今からアクションプランが策定されていくので具体的なものが見えにくい。評価をしていくのであれば新たに経費をかけてシステムを構築するのではなく、現行のシステムに組み込む方位で。

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(2) コミュニティバスを公共施設巡りから生活支援を目的とする運行に見直し

1	<p>・高齢者福祉、障がい者福祉分野においては、国の方針として「住み慣れた地域での生活の継続」が重点目標とされており、地域生活継続のための基盤として交通・移動環境の整備が多くの自治体で課題となっており、小郡市も例外でないと考えられる。平成30、31年度中に立地適正化計画を策定し、コミュニティバスについても生活支援の観点からの見直しが行われることについては賛成である。見直しにあたっては、協議組織での検討や利用状況の把握(調査)等が行われるとのことだが、高齢者・障がい者等の交通弱者のニーズ把握の一環として、介護保険事業計画や障がい福祉計画等の福祉関連計画策定の審議内容も是非参考にさせていただきたい。</p>
2	<p>・生活支援型への見直しにあたっての運行ダイヤについては、時間帯による変動を加えてください。 例) ~10時 小学校・病院・駅(通勤、通学、通院) 10時~15時 ショッピングセンター(生活利便施設) 15時~18時 (下校、帰宅等)</p>
3	<p>・利用者数にこだわらず、利用者のニーズに合った運用を考える必要があると思います。</p>
4	<p>・運行見直しと言いながら、ルートや時間は変更できないという説明には違和感を感じます。アンケートでも便数増、ルート見直しの要望はあるという結果が出ているのではないかと。</p>
5	<p>・担当の方の回答の中で「利用している方の意見を」とありましたが、より大事なのは「利用していない方」の意見だと思います。 ・生活弱者の利用が第一の目的だとは分かりますが、そこにそれ以外の方が利用しやすいようにという視点も加味してルート等を考えていただきたいと思います。</p>
6	<p>・今後、地域ごとの要望(特性)が把握できる型で調査を行い、その上でコミュニティバス、自治会バス、その他の手段といった住み分けを行ってほしい。 利用者の多い区間や運行回数を増やせば利用者増が見込める区間はコミバスを走らせることで経費の面でも削減してほしい。 ・交通弱者の移動手段の利便性向上については別途対策が必要と考える。</p>

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(3) 防犯カメラ設置事業を民間企業の取組を活用

1	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の企業、商店等との協力は重要であるが市民の安全を確保する為の予算としてはどの程度考慮されているかが提示されなければ市民の本来の安心は得られないのではないかと考える。 ・プライバシー保護の視点からもその方向性について市民に公開される必要があると考える。 ・その上で予算の内容についての工夫や方策が論じられるべきであろうと考える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラは犯罪の抑止力等には効果は大と思われます。 ・現状ですが、公的に設置している箇所は9箇所、民間が設置している箇所は？ ・設置箇所の選定については、警察署の意見の他に学校(通学路)の意見を聞いてはどうか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心の施設として選択し、市内に50ヶ所ほどの設置を行い、横の連携を図るという方針であれば必要な投資であろうが、スペックに応じコストは変わってくると思います。 他の施策との兼ね合いから、どれだけのボリュームで投資できるか。どれぐらいのレベルまでしか投資できないかを充分検討してもらいたいと思います。 ・要綱はつくった、ガイドラインは遵守するは当然ですが、他の施策以上に住民全員に周知を徹底する様やり方の工夫がいると思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ設置後の維持費について、その財源をkeepするのは大変だと思いました。(自販機の売上だけでは追いつかない) ・設置場所は警察だけではなく市民の意見も聞いてほしい。(事件が起こってからは警察だが、普通の生活の状態は市民の方が危険場所は気づいていると思う) ・どこに設置されているか公表して、市民の意識づけも大切だと思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を取り組まなければならないことは理解するが、個人情報の提供はきちっとした取り決めをすべきである。

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(4) 自主避難を含む避難所運営のあり方と災害時備蓄事業のあり方を見直し

1	<p>・朝倉・杷木でも高齢者・障害者などの避難行動要支援者名簿(リスト)はあっても防災リーダー不在等で、稼働しなかったとの旨。小郡市がどこまで把握しているのか？時間がなくて開けなかったか、防災リーダーの複数育成、優先順位の想定等。災害にあわれた地区の経験値を活かし、万が一の備えに万全を期して欲しい。</p> <p>・道路、公共機関の分断の可能性も高く、行政職員だけのマンパワーも限界があるので、「地域のことは地域で守る」自助、共助の意識を底上げする必要があるし、担い手に若者(昼間に小郡在(自営業者、小郡勤務者))を巻き込んでいく仕掛けが必要だと思う。(消防団との連携)</p> <p>・備蓄については、各非難所に1~2食分(想定)の食料備蓄を！賞味期限等の管理(買換え)は地域防災リーダーに協力依頼を！</p>
2	<p>・避難所運営は地域住民の協力が不可欠である。特に、女性の視点、リーダーも必要である。女性に必要な物資は何なのか、男性にはわからない部分も多い。</p> <p>・備蓄について、小郡市内の店舗(民間)との協力(物資等)体制も必要ではないでしょうか。そこを備蓄の拠点とすることも可能ではないか。</p>
3	<p>・備蓄倉庫がなぜ基山なのか不思議に思い、なんとなく不安に感じていました。(市内に貸倉庫業者がないということも知りませんでした。)</p> <p>・諸事情を考えても、やはり各避難所に1食分でもあれば安心できます。小郡の人口に対して15,000食分というのは適正な量でしょうか。少し足りないのではと思いました。</p>
4	<p>・長期化、想定外が災害。道路寸断、リーダーの保守など訓練どおりにはいかない。</p> <p>①コミュニティが基本(地域防災)</p> <p>②防災リーダーは幾人か必要(Ⅰ順番をつけておくⅡリーダーは実際避難所の運営の模擬体験をさせる)</p> <p>③食料備蓄は最低1回分は各避難所に備蓄しておくべき。</p>

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(5)「ふくおか電子自治体共同運営協議会」事業の活用とあり方を見直し

1	<ul style="list-style-type: none">・本事業について、SCの対象とされた理由は毎年度一定の負担金を支弁している以上、活用できるメニューの検証と費用対効果面から効果的に活用できるメニューを導入する(その検証を行う)と理解していたが、他委員からチェックの対象として適切かとの意見があった。本事業の内容、方向性については異論はないが、次回のSC事業抽出の際に留意いただきたい。
2	<ul style="list-style-type: none">・総合評価において検証が必要となった理由が不明。費用対効果に係ることなのか？
3	<ul style="list-style-type: none">・事業に支障がないかを十分検討してコスト削減が出来るなら積極的に活用していった方が良いと考えます。
4	<ul style="list-style-type: none">・小郡市のシステムの全体像が見えないため、個々の業務にどのシステムが有効でどのようなメリットデメリットがあるのか。なぜそのシステムを利用しているのかなどもっと視覚的に分かりやすく説明した方が良いのではないかと。・クラウドのイメージが明確でないため、外国語で説明を受けている様に感じられたので残念だった。
5	<ul style="list-style-type: none">・システム障害が発生しないように、コストと安全面をうまくバランスをとって良いシステムを選んでください。
6	<ul style="list-style-type: none">・災害時の情報の安全性からもふく電協を活用するメリットがあるのでは。・共同利用する事で費用が抑えられるのであれば、活用を。・負担金を支払っているのに、有効活用を進めてほしい。

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(6) 空き家対策事業及び空き家バンク事業の積極的な対応への見直し

1	<ul style="list-style-type: none">・移住促進、商業、手工業(工房など)他の利用方法のアイデアを広げ、発信、仮説を十分にもむことも必要。・権利者への実態調査は、調査&活用の方法についてカウンセリングも行うと良い。
2	<ul style="list-style-type: none">・空き家対策は喫緊の課題であり、現在、本市では「(仮)空家等対策計画」を策定中(H30年3月)である。このため、本市担当課よりお尋ねすることもあるかと思うので、その節はよろしく願いしたい。
3	<ul style="list-style-type: none">・これからの大きな課題の一つである空き家対策について、現状とこれからの取組みの方向性が良く理解できた。・質問の中にあつたように、市街化調整区域内の空き家の件数が多いことが気になったが、その対策も含めて調整区域の集落維持目的として実施を進めている都市計画法の開発許可制度(区域指定 地区計画)施策の重要性を認識させられた。この制度の市民への周知を進める必要がある。

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(7) パブリシティと広報紙の特集、SNSによる情報提供の発信方法の見直し

1	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリシティについて、市長の定例記者会見及びその他情報の提出以外に市内各地に住まわれている技術や能力を持った方々へスポットを当て、市内外の方々に興味を持ち、尋ねたいと思っていただく情報発信もありではないか。 ・雑誌、他自治体との情報交換等、多面的に交流を求めることで住民の皆様自信が発信者となる気持ちが生まれるのではないか。 ・FBもHP作る方も見る方も共に発信者の気持ちが必要 まずは市庁舎内の職員が全て発信者の気持ちに！
2	<ul style="list-style-type: none"> ・直接広報として市広報誌やホームページ及びSNS等による広報を市民が魅力ある内容としてページを開いているかが疑問である。(例:区での発行物は60%が見られていないという状況である) ・総務課広報係だけでなく各部署に協力を仰ぎ、無作為に職員を選出し、情報を提供してもらい活字の乱用にとらわれず、漫画チックな内容も一部増やしてほしい。 ・現在、各地域で奮闘している共働のまちづくりの行事紹介等、関係者が知りたい内容を掲載してほしい。また、文科省、全国の教育委員会が推奨している、コミュニティスクール、学校運営協議会の情報も各学校の先生方、PTA保護者会、他学校でどのような運営をしているか知りたい。 ・パブリシティ(間接広報)の1つとして定例記者会見を開催し、その内容を広報誌に掲載しているとのことだが、あまり魅力がなく見えていない。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・広報係以外の意見を聞いた特集づくりが必要という他委員の意見に賛同します。 ・特集についての反響が届いていますか？届いていればおしえてほしい。 ・FBの分析、解析はどこまでできるのか？アクセスされた場所や時間帯を分析できれば市外と市内のアクセスを分析して、どちらへの発信を重視するのかターゲットを絞れると思いますが。 ・広報誌は全世帯に配布できていますか？自治会に入っていない方への配布について知りたい。もし、全世帯に届いていないのであれば、その点の解決に向けた取り組みを知りたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の広報誌の中で活字が多く、若者が見ないのでもっと写真等を多くしてはどうか？また、LINEがあったが、今なくなっているが、なぜ、やめたのか？ ・SNSについても、ちょっとかたすぎるので、もっとやわらかくできないか？SNSについてはしぼりがあるが、これを大刀洗役場の職員さんのように自由に発信できないか？ ・SNSで発信しているが、観光協会等の協力は得ているのか？
5	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリシティの取組みについて一定の効果があると感じている。 ・広報誌についても特集は読みごたえもあり、担当者の努力も感じる。今後は、県や国の広報コンクールに出品するのもPRの一つだと思う。福津市のHPではこれまで受賞した広報誌を別枠で紹介している。自己満足にならないような内容をこれからも期待しています。

※小郡市では、LINEの活用実績はございません。

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(8) 職員研修のあり方と決算をベースに民間経営理念を取り入れた財政計画策定事務などの見直し

1	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながるまち小郡」の実現については、住民満足度の点検と課題を戦略的に抽出すべきかと考える。 ・スローガンとして「NOと言わない小郡市役所」など。 ・予算と成果の点検が必要か。 ・市民から寄せられる意見(幅広い方法を整備)と回答の公開(広報)の充実も必要。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた行政、協働によるまちづくりの実現に向けた具体的方策として積極的に取り組んでおられることが良く分かった。 ・委員意見にあったように、取り組みの成果を公表、共有することで市民と職員の意識の醸成につながると思う。行政は独りよがりになりがちであるため、市民の反応も見極めながら取り組みを進める必要があると、自分自身、改めて感じる機会となった。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・市がビジョンとして掲げる「つながるまち小郡」の実現に向け、市の職員も学習してほしい。市民から質問された場合、担当者だけでなく、市の職員も市の方針を学習し、理解して市民に説明できるように。 ・見込まれた歳入予算に合わせて歳出予算を組む、枠配分方式に賛成である。ただし、市民サービスの低下がないようにお願いしたい。 ・どうしても今までどおりできない時は、市民に説明してほしい。きちんとした理由が分かれば、市民も理解すると思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスチェックシートにあるように、市民と市職員が「つながるまち小郡」の実現に向け、パートナーシップの関係で共通認識を持つ必要がある。市民参画による行政経営を推進するため、市民と市職員が共に学習することは大いに意義あることだと思う。「キックオフ大会」は市民と共に実施されたが、「財政研修」も「財政状況」という形で広く市民へお知らせする必要もあるのではないかと思った。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(1) 小郡市立中学校の通学区域弾力化制度実施要綱

1	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校はやらないのか、その理由は？ ・希望者の状況はどうであるか。今後増加の傾向であるか。 ・通学にコミュニティバスの件は、希望の地域に平等に運行できないのは明白であるので、認められない。 ・体験者の意見、感想等を参考にすべき。 ・実施については、進めるべきである。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・一定のニーズがあるようだが、クラス増につなげるためには魅力化にもっと力を入れる必要があると思う。 ・10年目の事業にしては、魅力化の取組が遅れているように感じた。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に魅力ある学校づくりをどう進めるか、小中一貫校もできるところから、今の状況をもう一度見直し原点から考えた通学区の問題を考え直す必要があるのではないのでしょうか。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校でも特認校制度を実施すべきだと思いました。実際に、地区で区切ってしまうことで、通学時間が長くなる人を見てきたからです。 ・魅力化づくりに力を入れていくべきだと思いました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの活用を検討よろしくお願いします。 ・起業家育成教育が、今後必要になってくると思われます。(農業振興・商工企業・都市計画他との連携を)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域弾力化については、子ども達や保護者並びに学校や地域からの意見を踏まえて、学校の魅力化の問題をしっかりと捉えて進めて欲しい。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が速い速度で進んでいる中、現在実施されている制度は成果があり、今後も推進していく事業と思われる。 ・小中一貫校の設置については、市民や地域住民の意見を考慮しながら、十分検討したうえで、実施すべきだと思われる。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(2) 小郡市立学校施設開放規則

1	<ul style="list-style-type: none">・幼稚園、保育所、小・中学校の子どもたちが広々とした場所で、思い切り遊べる場所の使用システムを分かりやすく広報してはどうか？・学童保育、子ども会が頻繁に使えるようになると良い。
2	<ul style="list-style-type: none">・市民の目線に立たせてもらおうと、危ないから施設を貸せないという部分(夜間照明がない学校等)で、危ない部分を解消して貸せるように改善していただけないかなと思った。改善するのは市ではなく団体に対応させるのも一つの方法だと思います。地元の人が地元の学校をできるように検討していただくことができればと思いました。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(3)小郡市パブリック・コメント制度実施要綱

1	<p>・インターネットの普及への対応等時代に即した要綱改正を行われることには大賛成である。 あわせてパブコメに諮る内容、時期(骨子案レベルで夏から秋頃実施等)、手法等について逐条解説等で示し、より良い制度として運用されるよう研究していただきたい。</p>
2	<p>・パブコメを有効活用するため、実施する意味を十分に考えて改正していただきたい。 ・事務は大変になりますが、改正後1年間は周知徹底のためにもパブコメ実施前に企画課に合議をしたほうが良いと思います。</p>
3	<p>・意見交換ができ、パブコメに対してもお互いの認識を直接話すことで「そうだったんだ」と気付くことが出来たと思う。お互いを知ることで疑心暗鬼になったり、拒否、否定といった感情が減るのだと感じた。</p>
4	<p>・より市民の声を聞けるように手法を考えてください。</p>
5	<p>・より多くの市民の意見を聞くことで、その意見を取り入れるという視点から考えると、時期やどの段階で行うのか等やり方を検討していく必要がある。</p>

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(4)小郡市総合振興計画に関する規則

1	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性を持てる指針書(ガイドライン)を設けてはどうか。 ・議会との調整において、住民アンケート、ワークショップなどの結果レポートを必ず事前に議員に渡しておくことなどルール化は必要である。 ・差し迫った課題と中長期で行うもの、長期ビジョンなど、スケジュールリングについても明確に示した上で、さらなる修正、改定などを容認していくことも指針で明示すると良い。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の裏付け可能なアクションプランは3年程度という答弁があったが、新市長のマニフェスト100項目とはギャップが大きすぎて、整合性はほとんどないに等しいと考えられる。これをクリアするためにも、総合計画の策定について市民参画を規則に位置づけることは、重要なことだと思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・貴市では規則の中で市民参画の方法、基本構想、基本計画、実施計画の期間、審議会、議会への諮問、提案について細かに定められている。 ・本市では、審議会、総合計画委員会の定めはあるものの、期間等についての定めはなく、H23自治法改正に伴う義務付け廃止に伴い、それまでの基本構想10年、基本計画5年に縛られない、必要に応じて見直しを図ることを可能とするなど、総合計画のあり方を見直し、議会の方で「鳥栖市議会の議決すべき事件に関する条例(H26制定)」を定めている。これにより、毎年進行管理を行う中で方向性に修正すべき点がある場合は、議会へ諮ることとしている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「どのように課題解決を図るのか」に記載のある「現在の状況を踏まえ、本市に適した計画の構成や策定体制、市民参画のあり方を検討し、規則の改正を行う」を、ぜひ実行してほしい。ただし、「課題」に記載のある「つながるまち小郡」アクションプランとの整合性を重視して。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい総合振興計画を策定するにあたり、「市民参画」をどう取り入れていくのかが最大の課題であると思う。 ・3タームの「つながるまち小郡」アクションプラン策定推進事業と内容が重複しており、項目を合わせても良かったのでは。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(5) 小郡市ふれあい安心コール事業実施要綱

1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に対する安否確認は、まさしく命にかかわる問題であり、費用対効果で考えていける問題ではない。代替が自己負担になることはいいことなのか。 ・周知することを当事者(対象者)に限るのではなく、全市民へ行い、活用を呼びかける「メリット」を明確に説明して、地域が共に助け合える関係の上に展開されるべきです。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の内容を対象に周知しているか ・本事業の内容「安否確認」と「避難指示」等と併せることは出来ないか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい＝1名、御用聞き＝4名。これが他のサービスからもれている？これじゃないといけない？ではないはず！！(本人への情報提供は十分か？) 他課のサービス・情報共有が円滑なのかを疑います。 高齢者の見守りという共通テーマで課題解決に向け横の連携を強化し、きめ細やかな対応を実現できるよう頑張ってください。
4	<p>質問</p> <ol style="list-style-type: none"> 御用聞き事業は一回の訪問で、どれ位の時間をかけているのか。 <p>Ans 1回30分(とても丁寧な訪問だと思う)</p> <ol style="list-style-type: none"> 利用をやめた人からその理由をきいて分析したのか？ <p>介護保険との併用が出来ないことが大きな壁となっているとの答えだった。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が減少したことで中止すべき事業ではない。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(6)小郡市敬老祝金支給規則

1	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の希望を組み入れることで、一定の方向性はあるではないか。 ・手続きや行政側の都合を優先させることが「お祝い」の意味を下げているような気がします。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・将軍藤小判、現金等いずれか支給。 ・現金支給がよいのでは。 ※現金が使い勝手が良い。 ※将軍藤小判は使用期限がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・現金(のまま)が(H27変更時…)ベターだったとは思いますが、区長へ現金を扱わせない旨決めたのであれば仕方ないかとも思う。 受領者の声を区長会へフィードバックし、区長からの現金配布にはこれだけコストがかかってしまう旨、説明を続け区長会からの理解を得ていくしかないと思う。 ・年1回、88歳と100歳の方へお祝いにいく事としてとらえれば、区長の仕事としては決して`負担`と考える人ばかりではないと思うが…。区長も非常勤特別職なのだから…。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・現金から商品券に変えた大きな理由が、区長さんの負担軽減というのは、敬老祝金の本来の意味と違うのでは？ ・購買意欲の促進を目的としているのに支給年齢が88歳と100歳なのはなぜか？(県の祝い金支給の年齢に合わせている。) ・お金、商品券ではなく、高齢者にとっての本来の祝い金として考えると、もっと別の支給内容があるのでは？例えば、88歳と100歳の方はインフルエンザワクチンが無料(病院で証明書を出せば無料で受けられる)になるというサービスでもいいのでは？
5	<ul style="list-style-type: none"> ・市民(受給者)からの意見や要望をふまえ判断し、支給方法を考えるべき。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(7)小郡市ファミリー・サポート・センター事業実施要綱

1	<p>・ファミリーサポートの役割と意味をお母さん方に伝えて欲しい。 「ほんの少し自分の時間を持ってみませんか？」 疲れすぎると子育ては、母にも子にも負担がかかるもの。 リフレッシュの大切さ。預けることは子育ての放棄ではありません。子どものためにリフレッシュを ・ワンコインでお預かり。。。スタイリッシュな言葉に追われないで、地域の人脈をつないでいただきたい。</p>
2	<p>・目標件数は？依頼会員と協力会員は1:1ですか？依頼会員の伸びはどうか？ ・できるだけ、小郡市も500円(他の自治体にもあるように)にようお願いしたい。 ・この事業の在り方が、未だ一般化していない。一般にこの事業を周知していくため、子育て支援課の運営方法は引き続き行っていただき、総務課の直接広報、パブリシティを利用・活用してPRするのも良いと思う。</p>
3	<p>・他の委員が言われたとおり、預かった子が成人を迎えて一緒に祝えるような取り組みはとても大事で、とても良いと思った。</p>
4	<p>・協力会員の講習日についても、もっと気軽に行ける日程を設けて欲しい。 ・自宅という決まりがあるので、そのしほりをなくすように国にかけて欲しい。</p>

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制度

(8) 小郡市家庭児童相談室設置運営規則

1	<ul style="list-style-type: none"> ・組織見直しについて検討されている旨 ・これまで組織のすき間に落ちて支援の手が足りなかった市民にきめ細やかな対応を期待します。 自主的に電話や窓口で相談される方は支援できますが、虐待(ネグレクト含)は支援の網が不可欠です。学童期より前の乳幼児期に早期発見、早期対応につながる連携をお願いします。成長に伴い判明する発達障害(グレーゾーン)の児童、先生方配慮をお願いします。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・横の連携(各課連携)が今後重要になってくる。 ・児童以外の高齢者や環境等についても市民のニーズは幅広いので、連携協力が必要であり、例えば、庁内機構を見直しも必要と思うが、人員等の制限もあると思うので、プロジェクトチームでの対応も有効ではないでしょうか。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の一元化は、とてもありがたい事だと思いますが、今、この時に苦しんでいる人のためにも、HPの充実をお願いします。どこに相談したら良いのか、分からないとの声をよく聞きます。 ・大川市の取り組み素晴らしいと思います。関係部署が月1回ミーティングをして情報を共有する小郡市でも必要なことだと感じました。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップ化とても大切なことと思います。0～18歳までと発達段階に応じた多様化する(虐待、発達障害、新しいメンタル面など)相談は、しっかりとなされるべきで大賛成です。相談員を増やしたり、専門家の意見など反映してやってほしい。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(1)「つながるまち 小郡」アクションプラン策定・推進事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・住民満足度調査実施によって、課題抽出を図り、事業化可能かを検討。 ・住民参加型は良好である。意見集約と取捨選択の判断をどう行うかが課題。 ・マニフェストがすべて実行ではなく、検証して不可能、または修正など、納得できるものとなるよう、その情報を公開することが必要。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・直接市長に聞いていただいた。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画とマニフェストの関係は、市民の皆さんにとっては分かりにくい部分もあったかと思う。市民の皆さんにとってはもちろんのこと、職員の皆さんにも総合計画とマニフェストの関係性が理解できていない場合がある。 ・策定まで時間がない中での作業となるが、マニフェスト項目の検討、具体的な施策ベースに置き換えていく作業の中で、検討・進捗状況を分かりやすく示すことで、庁内・外の理解が深まっていくと思う。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプラン策定、推進においては、市の総合振興計画の基本構想に沿ったものであってほしい。 ・市長マニフェストは、小郡市発展のためと、短期(任期中)に実現できるものを検討してほしい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・市長マニフェストの実現のためには、総合振興計画とのすり合わせが必要であり、アクションプランとして策定することにより、マニフェストが実効性のあるものとなる。 ・その際には、現総合振興計画は議決された計画であるので、議会との関係があり、丁寧に説明し、進めていく必要がある。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(2)「市民みんなでサービスチェック」事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・たいへん良い取組みである。 ・1タームの時間が短すぎる。 ・テーマ設定も関連する要因や課題が多岐にわたるものもあるので、事前にセッションのメインの部分(主と従)をシナリオ化し、論点の深掘りができるように進めると良い。 ・48事業全部ではなく、重要課題を絞り、同一テーマでもそれを複数グループで討論するものがあった方が良いのでは。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への周知徹底がなされると思うが、「行政サービスチェック」の概要を受け、市民が質問、意見を述べる機会、場所を設定していただきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組みは準備等も大変であり、職員さんにとっては戸惑いも多かったのではなかろうかと思う。大変お疲れさまでした。 ・参加された市民の皆さんも、市民参画の新たな取組みとして期待される部分も多かったと思う。そのため、市民の皆さんから厳しい意見や職員の皆さんからも意見が出るかもしれないが、行政評価の手法の一つであり、新たなチャレンジでもあることから、十分な検証を行っていただき、反省点をいかして今後にいかしていただければと思う。 ・今回、市民参加の手法として大変勉強になった。課題も多いと思うが、先駆的な事例として、今後この事業が定着・発展していくことを期待しながら、今後の取組みを引き続き勉強させていただきたい。頑張ってください。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・今までにない事業で、行政の事業や内容に市民が参画して、意見が言えることはすばらしいことと思う。しかし、今回参加していくつか気付いたことがある。 ◎委員の公募方法について <ul style="list-style-type: none"> ・一定の期間をもって、市民が目につきやすい方法で。 ・チェックする事業は、公募する本人が希望する項目を記入する形式もほしい。 ◎時間設定について <ul style="list-style-type: none"> ・1タームずつの時間が短かった。1人ずつ質問して、担当からの説明を入れて5分は短いと思う。途中での再質問の時間がなかった。 ◎おしゃれではあるが、全体的に横文字が多いと思った。中には、日本語でも良いのでは？と思ったものもあった。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・今回実施した上で、48項目は多すぎたのではないかと思う。 ・次年度の改善策と掲げているように、選考基準を明確にし、事業を絞った方が活発な議論ができると思う。 ・また、1ターム30分での実施だったが、担当課の説明、質問、意見交流、意見書の記入という内容であれば、30分は短すぎる。45分～50分程度は必要ではないかと思った。 ・実施時期についても、決算が出され次年度の予算編成の前、いわゆるサマーレビューの時期、ただし現実的には9月議会で決算認定がなされるので、9月議会以降、予算要求締切前の時期に開催するのが良い。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(3)「食と農の複合施設」設置事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模を図るための構想については、十分な検討が必要である(構成要素、採算性、経営者(企業)の資質・能力をどう考えるのかといった点)。 ・近隣から集客できる産品、加工品の開発や品揃えなども重点課題となる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・小郡特産の野菜の輸出振興に向けて、市の振興助成を検討されたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域は農作物の一大生産地であり、地の利をいかして広範囲から農産品を集めることが可能である貴市の特性を活かし、近隣類似施設との差別化を図ることで販わいの創出につながると思う。 ・他方、一定規模の用地の確保が必要となることから、農地の問題も含めどこに設置するかによって効果も変わってくると思われる。 ・担当課や委員意見にもあったように、マーケティング調査や生産者の意見等も踏まえた仕組みが必要であると感じた。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・食と農の複合施設は、市民としては魅力的だが、ハード面でかなり実現が難しいと思われる。もっと、小郡の特産物や歴史ある場所などに力を入れ、小郡をPRしてほしい。その後、複合施設の設置等考えてはいいかと思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の状況については一定理解することができた。 ・ただし、「食と農の複合施設」と一般的に言われる「道の駅」との明確な違いが伝わってこなかった。 ・また、市の特産品についてサービスチェックシートでは未だ見出せていないとのことだったが、質問の回答の中で現在力を入れている農産物の説明があった。特産品といっても特別なものではなく、一般的な野菜等でも特産品として前面に出して取り組んでも良いのではと思う。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(4) 高齢者インフルエンザ予防接種事業

1	<ul style="list-style-type: none">・対象者が行政サービスの情報をキャッチできているか。様々な行政の発信する情報にアクセスする権利が保障されているかを当事者の立場に立って、その困難にする要因を解決する取組みを行う必要があるでしょう。・延長することは、効果が上がることを願います。
2	<ul style="list-style-type: none">・65歳以上の接種率55.3%低いのに驚いた。・接種期間の延長については、「10月～12月(3ヶ月)」を「10月～2月(5ヶ月)」にしてもよいのでは。 (※流行時期が12月～3月、接種から効果が2週間程度であるから)
3	<ul style="list-style-type: none">・提示された課題についての対処は確立している。・課題としてとらえるべきは、接種率をどう向上させるかであると思うが、特段有効な手段はあまりないかも…。 <p>12月中旬までに接種すべきという情報をいかに市民すみずみに定着させるかだろうが、あくまで努力規定だから…むずかしい問題です。(接種率だけで成果を語れない。)</p>
4	<ul style="list-style-type: none">・接種率が50%代というのは驚いた。・していない人と接種した人との、罹患率の違いはあるのか？・他の都道府県、市町村との違いはあるのか？・65歳以上ではなく75歳以上にしては？
5	<ul style="list-style-type: none">・接種率を上げる工夫が必要ではないか。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(5)本部町との「友好のまち」締結事業

1	<ul style="list-style-type: none">・本部を尋ねる旅、ツアーを立ち上げてはどうか？・本部の歴史と小郡の歴史を互いに勉強し合う中学生の学びの場を設定してはどうか？・常設の物産館を作ってはどうか？
2	<ul style="list-style-type: none">・企画課としてどのくらいの予算を組んでいるのですか？・現在、市では財政ひっ迫の中、win winとかワクワクするような情勢ではないように思えます。民間など一般社会の常識として、行動を起こし、事業を展開すると必ず相応の利益、メリットを追跡されます。本事業は何を求めて、何を目標にするのか全く見えません。高所から見ると、文化交流は芸術に見えてしまいがちですが、今の小郡市の財政を考えると積極的に支援はできません。
3	<ul style="list-style-type: none">・うきは市の友好都市交流についても課題がありますので、小郡市の取り組みも期待しながら適宜横展開させていただければと思います。
4	<ul style="list-style-type: none">・本部町の交流についてPRして、本部町の特産物を販売するとか子どもたちを入れて、友好の町にしてほしい。・青少年育成市民会議に協力をもらい、幅を広げてはどうだろうか？・ふるさと納税は市外の人メインになるので、小郡市民に本部の良いところをPRして、お互いが活性化できるようにしてほしい。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(6)小郡ブランド青大豆「キヨミドリ」栽培・育成推進事業及び七夕の里活性化事業

1	<p>・青大豆キヨミドリは、まずは生産を一定規模増やし確保することは農業者への理解が必要だ。ブランド化をするのであれば販促をJAで良いのか出荷組合のようなものも必要ではないのか。七夕の里は「恋人の聖地」プロジェクトとして若いターゲットに該当する方々をメンバーにして市民、市外民の意識の熟成から起こしてやらないと難しい。</p>
2	<p>・小郡ブランド品になぜ青大豆を選定したのか、他の大豆と比べどのように優れているのか、現在の農家の生産体制、今後の販売計画はどのように考えているのか。これらを明確にし広報宣伝に力を入れるべきである。市内で生産されている他の農産物、野菜等販売計画として将来市内に道の駅等の建設を市は考えているのでしょうか。近隣市町村の成功例も多々あります。苺、水菜等ハウス栽培も盛んに行われている現在農業振興全体に力を入れて頂きたい。市内での知名度を高めるためにも七夕神社の建立の経緯等主体に宣伝活動を再度していくべきだと思います。知る人ぞ知る、しかし市内でも知らない人が結構います。七夕プロジェクト事業の目的、ねらい、成果は何を期待しているかが何であるか見えない。イメージ戦略・商品戦略・イベント戦略3つの戦略を掲げていますがもっと市民に分かりやすく説明すべきである。</p>
3	<p>・普通作の作物でもあり大量生産が可能な反面、販路・用途の開拓が難しく課題が多いと思いますがブランド化にはハードルが多々あると思います。筑前町でも黒大豆を特産品として生産販売していますので小郡市の取組に興味があります。今後の小郡市の取組や加工品に注目したいと思います。</p>
4	<p>・行政は縦のつながりはあっても横のつながりが無いのでは。恋人の聖地と歴史探訪を合わせるなど若い人に考えてもらってはどうか。</p>
5	<p>・大豆を食べに小郡まで来るのか。</p>
6	<p>・七夕の聖地活性化事業について神社の地元を含めて展開できればと考えます。しっかりと進めてもらいたい。</p>

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(7) ふれあい運動会・成人式祝賀駅伝大会

1	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ふれあい運動会 公民館対抗では参加してこない。若い世代やファミリーの参加のあり方、リニューアルも検討した方が良い。 ・駅伝大会 ネーミングも含めて再構築が必要と思う。リレーマラソン、市民・市外民も参加していく方向もあるかもしれない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ふれあい運動会 公民館単位の参加を取りやめ、行政区単位で参加を募る。また、小さい行政区は同じ小学校校区内の他の行政区とコラボ参加をOKとし参加者増を図る。参加者は普段入れない公式な陸上競技場で運動できることを楽しく思っています。 ・成人祭祝賀駅伝 上記ふれあい運動会で述べた行政区単位の参加を募り校区内の小さい行政区は他の行政区とコラボOK。成人参加しない故、駅伝大会名称の変更をお願いしたい。コースの問題ですが市内幹線道路を使用していますので年々交通量の増加に伴い社会問題が生じてきます。しかし沿線での地元応援も市民の楽しみになっています。警察交通と協議しながら様子を見て行くことになると思います。直接にこの事案と関係ありませんが、市の地形を見ますと大牟田線、宝満川と平行に縦に長い地形となっています。将来を考えると宝満川の長い堤防を自転車道、自然歩道等として活用していけるよう管理者の県に働きかけたら如何でしょうか。河川公園等も加え市民の憩いの場、運動活用の場としていけたらと考えます。将来のまちづくりとして小郡市に残された素晴らしい宝満川を活用すべきです。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ふれあい運動会について参加公民館が固定しているとのことですが、一旦固定化すると新規参加は難しくなると思います。固定化しているとはいえ、参加公民館のコミュニティ形成・維持の一端を担っているのではないのでしょうか。 ・成人祭祝賀駅伝大会のついて現状を聞かせていただいた内容からは成人式と切り離して体育事業と割り切って良いのではないのでしょうか。安全上の問題については、県の市町村対抗駅伝でも周回コースに数年前から変更されています。応援する側の利便性からも周回コースにしても良いのではないのでしょうか。(駐車場の問題等は出てくるかもしれませんが)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・成人祭祝賀駅伝大会は時期が悪い。応援もない様なコースだったら今後成人式のみとする。 ・ふれあい運動会は市全体の運動会とはいえない。考え直す必要あり。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい運動会・成人祭祝賀駅伝はどうやって参加団体・人数を増やすつもりなのか。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい運動会以外にもイベント等が数多く開催されており、参加者の数が減っている。区やまち協とのすみ分けも必要ではないかと思ひます。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(8) 審議会委員等の女性登用率40%達成目標仕組みづくり事業

1	<p>・女性協議会の高齢化が課題となっており、若年女性の掘り起こし、育成を支援して欲しい(組織の弾力化)。他自治体の積極的な施策を参考に導入して欲しい。(大木町:定数条例、大牟田市:首長決裁、筑前町:改選期集約、施策)今ヒアリング(団体)では遅いため、先手の施策を。</p> <p>・数値目標も大事だが、ノルマ(30~40%)ではなく、女性を入れる(任用する)事でどうメリットがあるのかを理解させるための研修(啓発)の必要性がある。最初は管理職研修→全職員研修へ(男性にはない発想、男性脳女性脳、母性への理解・配慮(妊娠・出産)等)</p> <p>・登用された女性が充て職ではなく、女性独自の視点や考えを発揮できる土壌づくり(男性中心の意識改革)が大切。専門職(男女共同参画の有識者)の登用も視野に入れた体制づくりを！人権・同和との連携も大切に。</p>
2	<p>・なぜ女性登用が必要なのか、ここの利害が重要である。所管部署、関係団体にまかせるだけではなく、市としての方針をきちんと説明していくことも重要ではないか。まずは女性登用の重要性の周知から行うべきだと思います。(意識改革)</p>
3	<p>・庁内に男女共同参画の専門家を招き、職員、市民にも研修を実施していただくと全体のレベルアップが図られると思います。「公募」で広報等でお知らせをしても、本当に参加して欲しい人に届いているのかという疑問があります。若い世代に情報を届けるためには、その世代に届くツールを使って(デザインにも気を配って)届けて欲しいです。</p>
4	<p>・男女共同参画を推進する必要性も含めた職員研修(特に管理職)が是非必要。先進市町村の事例を参考に具体的な登用率アップを図るべき。</p> <p>①定数条例の改正②改選期の審議会の洗い出しと女性の委員を増やす取り組み③首長が女性委員の委員会には決裁しない。④補助金団体等の事務局への研修と市内在住女性の掘り起こしとリーダー育成。</p> <p>・各部局へのヒアリングをしているだけでは手ぬるいし、育成できないのでは？</p>

付属資料①

傍聴者からの意見

1. 実施計画に掲げる主要な事業と新規事業

(3) 開発指定区域委託業務・立地適正化計画策定業務

- ・農業をする人も少なくなり、都市計画法第34条第11、12号の開発を多く適用してほしい。
- ・大きな団地を作ると地元の考えと団地の人の考えの差が多いので、小さな開発をお願いします。
- ・現行では、娘の家が建てられない。

(4) 庁舎建設基金積立事業

- ・着工年度に見積もりが膨れ上がることはないよう見通しをしっかりといただきたい。
- ・着工業者の選定→透明性を保つこと。他の市町村では癒着等でみっともないことが多く起きている。
- ・国からの補助金は全くないのか、更に検討していただきたい。EX.基地周辺整備事業等
- ・早めに庁舎の全体像を示してほしい。
- ・共同住宅賃貸マンションの案には大賛成です。

(8) 私立認定子ども園新設支援事業

- ・待機児童解消のための支援事業のように説明を聞いて感じた、それでよいのでしょうか。
- ・認定こども園の本来の目的をもっと知らせてほしいと思います。
- ・なぜ私立幼稚園なのでしょう、現在ある公立幼稚園のサービスをもっと充実させれば働きながら子供を預ける事ができ待機児童解消にもなると思います。

2. 課題がみられる継続事業

(1) 協働のまちづくりセカンドステージ(共働)推進事業

- ・市のまち協の会長方々が集まっている連絡会？がありますが、物事を決めきれない機能していない会です。なぜならば、本日の課題もまち協立ち上げから抱えてきた課題だからです。全く課題を解決できていないと感じます。解決しなくてもせめて回答をして欲しい。
- ・区長がまち協に属し、手当てをまち協からももらっている。区長は、別途委嘱された手当てがあるので、まち協からもらうのは違和感がある。そもそもまち協の役員手当てを地域で決めさせていることにとまどってしまう。
- ・まち協の組織構成を地域にまかせすぎているため、校区によっては、個人、団体の代表者、有識者？様々です。せめて、個人の集まりなのか、または、団体の代表者で構成するのか？くらいは枠がほしいと考える。
- ・まち協のことが地域の方々にあまり知られていない。行政区の活動、校区公民館の活動など内容が動いている部分も多く、分かりにくい。
- ・人材は豊富なのでこれからは人材発掘や育成ネットワーク作りを進めていきたいと思っています。
- ・校区をどうしていきたいかビジョンを持つこと大切ですね。

(2) 校区公民館の進化・発展・活用事業

・質問・回答の中に出てくる、共働のまちづくりと協働のまちづくりの文言の違いは、あえて分ける必要があるのか。
・コミュニティセンター化は時代の要望だと思う。そして、幅広い活動ができるのではと思う。
・コミュニティセンター化することにより、協働のまちづくり事業がもっと認知される活動が、できやすくなると思います。

・校区公民館とコミュニティセンターの違いを住民に説明する必要があると思う。
・校区公民館からコミュニティセンターになると何がどう変わるのか。何がよくなるのか(メリット)? 住民説明が必要だと思う。
・コミュニティセンターで地域が活発になればなるほど、道具も増えると思います。事業ばかりでなく、地域の“倉庫”を考える必要がある。

・早い段階でのコミュニティ化を図り、多くのニーズに応えていただきたい。
・経費のロス・ムダを省くことを真剣に考慮してもらいたい。

・今からの事業も含まれているので、なかなかですので、地域それぞれで違っているので、一くくりに考えないでいろんな人の(地域)声を聞いて取り組んで下さい。

・コミュニティセンター化されればメリットの方が大変大きいように思えました。ますます地域の拠点として活用されそうですね。
・証明発行は、郵便局やコンビニ検討してほしいと思います。

・社会教育法を基本に運営されていた校区公民館の秩序が保たれていたものが、なくなる懸念を感じる。暴力団や特殊な宗教等…。
・協働のまちづくりが校区公民館と一緒にできれば課も一つとなり、お互い仕事が分けられるので良いと思います。(今出来る仕事、出来ない仕事の制限がある。)

(5) 市民音楽祭

・ミュージカルカンパニーだけが小郡市の補助(お金と職員)を受けていることは不公平である。小郡市の補助を受けている音楽祭ですが実行委員の任期をさだめていないのでは? ハーモニー小郡でリハーサル期間を長く1週間くらいホールを使っていることは減免とはいえもったいない。また人件費もかかっているため検討してはどうか? 同じ人ばかりが長く実行委員を務めるのではなく、いろいろな方々にかかわってもらった方がいいのでは? 人が変わるとマンネリ化から変わる。

・すばらしい事業と思います。ただ、市民音楽祭としてはミュージカルカンパニーの入場料が高すぎると感じています。全体的な予算や収支をもっと具体的に公開してもよいのではないかと。

(6) 三国幼稚園と小郡幼稚園のあり方とその対応

・園児をもっと増やすためにどうしたらいいか考えてほしい。子どもを増やさないと市ではなくなるのに、新しい家ばかりつくっても人は来ない。待機児童を減らすと国が言っているのにこども園とか考え、2つつくるとか考えなかったのか。

・可能であるならば、統合そのものを見直されるとよいと感じた。もう少し市民(保護者)の意見を吸い上げる場があってもよいのかなと。

・3年保育も預かり保育を実施せずに園児減少のデータ取りをしても何の根拠ともならない。三国幼稚園にて3年保育と預かり保育をするように！
・市長の方針はH29年度中に出るのか、それまでに方針を出すように。三国幼稚園存続を！
・2園存続していただいたり、3年保育や預かり保育を入れてほしい。2園に！
・園児数を増やす経営努力をすること！
・財政難は理由にならない。子育ては国、自治体、住民をあげて行うべき。国も少子化対策のために動いている。逆行しないように！

・三国幼稚園の今後のあり方を市民と協議されるということだが、うちの子はH30年に入園し、H31年度はどうなるのか不安しかない。
・統合することは決定ではないと聞いたが、それだったら存続するというにはならないのだろうか。また、そのまま存続だろ園児数増加にはつながらないので、3年保育、預かり保育の実施を求める。
・今後のあり方について決定はいつまでになされるのか。年長になって迷っては遅いので、せめてH30年3月までに決めてほしい。「検討します」「検討します」では間に合わない。いつ協議し、いつ決定を出すのか明確にして。

・三国幼稚園で3年預かり保育を実施せずに休園は納得できない。
・委員さんの保護者への十分な説明をしたのかという質問についてははっきりと答えられないあたり、説明不足であったのに休園にしていることがよく分かる。
・委員の方々の意見も公立幼稚園もなくすべきではないとの意見が多く、やはり三国幼稚園の休園は考え直すべき。
・三国幼稚園の3年預かり保育の検討も今後とのことであるが、いつ答えが出るのか全く分からない。これは、ただの先送り。31年度入園を考えている保護者のためにすぐに取り組むべき。
・このサービスチェックの回答は、必ず正しく出してほしい。

・同じ地域の子と一緒に学び遊び小学校までいけるというのは、子どもたちの安心感にもつながる。どうか、三国幼稚園を残して！とてもとても素晴らしい園！子どもたちも大好きな園！

・市長の方針決定は、どのような課題で、どのような日程でなされていくのか。
・平成30年度にアンケートをとるのは、どのようなアンケートか。また、その決定は、いつまでになされるのか。
・これだけ多くの三国幼稚園存続希望があることから、三国幼稚園でも小郡幼稚園と同じように、3年保育、預かり保育の実施をすべきではないか。
・もし、三国幼稚園を休園決定されるとしたら、住民無視としか言いようがない。
・「見直しは可能なんですか」という委員さんの意見を重く受け止めてほしい。
・「効率化のために統合していいのか」全く同感。公立としての幼児教育の重要性を大事にしていくべきでは。
・「早く3年保育、預かり保育をしていけば、三国幼稚園の園児数はこれほど減少しなかった」という委員さんのご意見については、どう考えるか？
・「可能性は消えていない」可能性があると返事(教務課)された。これを信じる。
・これからの検討日程を明らかにしてほしいと思う。そうじゃないと保護者は不安。
・委員さんの意見が客観的でとてもよかった。委員さんの意見が無駄にならないようにしていただきたいと思う。

・私立は市外からも通えるし、3年保育。それで児童も増えるが、市立は小郡市の子たちのみの運営。3年保育にし、延長もあればまだまだ児童は増えるはず。何もせずに統合は早いと思う。

・「保護者の意見は聞いたのか」「効率化のためだけにこの距離の統合に疑問」このような委員さんの意見にとっても共感した。三国小学校にあがる子どもたちがそのまま幼児教育を受けられる三国地区に公立幼稚園があるというのはとてもとても大切なことだと思う。

・早い時期に3年保育や預かり保育を実施していたら、私立よりも公立を選び、通園させる保護者もぐっと増えるのではという意見も最もと思った。

・もっとしっかりとこれからの入園予定者や卒園児保護者も含め、意見を聞き、考えていただきたい。

「まだ三国幼稚園の3年保育、預かり保育の可能性はある」という言葉、切に願っている。

・待機児童はもっといると思う。定員が割れている状況も3年保育、預かり保育があれば解消されると思う。具体的に調査の方法を検討すればニーズはあるはず。

・市立と市立の園児数の差が分かっているのならそれを解消するよう対策とるべき。

・「今後総合的な検討」とあるが、30年度、31年度入園予定の子ども保護者は不安。早く結論が出せないなら、三国幼稚園を継続させつつ、三国地区の保育の空白をつくらないようにすべき。

・休園決定までの教育委員会の甘さにはあきれられるばかり。子どもの将来を真剣に考えて。

・まだ多くの待機児童もいる現状なので、三国幼稚園での預かり保育の実施や、存続は必要だと思う。もう一度ぜひ検討お願いしたい。

・三国幼稚園として存続を希望している者です。

・認定こども園の話が出たが、今の三国幼稚園の園の方針である、毎日の親の手作り弁当が子どもにいいと思って、三国幼稚園に入れたいと思い通わせている。

・市の財政、園児の減少、もろもろ見ていれば分かった話だと思う。少なくなった財政がないってだけで今現在の3～4才を切り捨てか？三国幼稚園の存続をお願いします。

・三国地区、小郡地区の地域格差

・今まで出来てなぜ三国幼稚園で3年保育、預かり保育をしなかったのか。

・小学校校区内での子育て、幼児教育の必要性、全く同意見。

・今後の三国幼稚園、31年以降の空白化はありえない。待機児童103名であれば「三国幼稚園4年保育」で2歳クラスからスタートで、小郡市の今後の児童数減少であれば、募集人数を減らして、2歳クラス×2クラス、3歳クラス×1クラス、4歳クラス×1クラス、5歳クラス×1クラスであれば、今の施設で変わらず三国幼稚園でいけるのではないかな？

・三国地区に幼稚園を！三国小校区内での子育てがしたい。

・アスターの定員数は非常に危険。

・三国幼稚園のH31年度以降の空白化はありえない。

・今日の資料からでも対応が遅かったのではないかなという疑問が残る。

・やはり、三国校区と小郡校区では場所が離れているため、三国校区にも幼稚園を残してほしい。小郡幼稚園と同じように3年保育が難しいのであればもっと新しい形での幼稚園をつくってあげようか。

アスターや三井は人数が増えているのは年少少(4年保育)を進めているからだと思うので、三国の子育て地区に保育園希望の方が多いのであれば、そういったことも含めて考えてはどうか。

・小郡は公立幼稚園があることで、子育て世代の人は住み良いところと思っているのに、一園になるのは良くない。小郡幼稚園が3年保育、預かり保育をするようになるときに、三国幼稚園も同じように3年保育、預かり保育をすれば、三国幼稚園へ入りたい人も増えていこうし、公的な幼児保育が受けられるということで、小郡に住みたいということで人口も増えていくのではと思う。是非存続と3年保育、預かり保育をお願いしたい。

・私は現在2人目の子どもを三国幼稚園に通わせている。2年ほど前に小郡市民になった。全く知らない土地での子育て生活だったので知り合いはおらず、どこに子どもを遊びに連れて行けばいいのかも分からず、日々を送っていた。そんな時、回覧板で三国幼稚園のなかよし広場を知った。正直3年保育ではない三国幼稚園に最初は魅力は感じなかったが、通ううちに周りの人たちの口コミもとても良かったので、通わせることにした。今では、それまで一人もいなかった知り合いも増えて、とても楽しく過ごしている。これからも新しく小郡三国地区に来られる方も私と同じ方がいらっしやると思う。通わせて思ったことは、三国幼稚園のきめ細かな目配り、子どもを伸ばすためのカリキュラム。こんなに良い幼稚園がなくなるなんて残念でならない。もう一人子どもがいるので通わせたい。

(7) ふるさと納税と観光協会の振興・発展事業

・寄附金の使い道は早目にすすめてほしい。今後小郡のまちづくり(七夕の里等)含め関連して特産、PR品の開発を活発に行って頂きたい。

・小郡市のふるさと納税はあまり知られていない事業と思われます。もっと市民に知ってもらう工夫をしていただきたいです。時間が短いのと聞き取れにくく残念でした。しかし、市の方の説明は分かりやすく、これからの市の発展のため頑張ってください。

3. 公共施設長期整備計画に掲げる投資的事業

(2) 校区公民館増改築・新設・改修事業

・継続、維持できる施設、メンテナンスし易い施設 あまり大きな増・改築は難しいのでは？
・増改築をする場合は地域も施設を維持していくための約束ごとなどを理解する必要があると思う。

・公民館の中に児童館を併設して下さい。公民館の中で子ども達が、騒いだり走ったりして利用者の方に迷惑となっているようです。子どもに公共の施設でのマナーを教えることも大事ですが、子どもは本来、うるさいものです。子どもも利用できるようにするために、児童館を併設してほしいと思います。

・三国校区は、たて長い地域です。校区公民館(ふれあい館)は校区の中では南部にあります。三国校区は世帯数も多いので、北部に校区公民館(その2)がほしいと思います。

・学校施設の中にある生楽館、今後どう活用できるか地域の方も交えて検討出来たらいいと思いました。

(4) 学校施設改修等事業

・立石の小中一貫校の計画に対して、一貫校だからこそできる特色作りの計画のもと、進めてほしい。
・建物だけの一貫校の考えであれば子どもたちのデリケートな心を見殺した計画となりがねないのでは。
・トイレ、改修については、実際に使う、子ども達の意見、また、他校(改修済)の状況を把握し改修にあたってほしい。

・教育施設の整備なので遅れることのないよう優先性をもって整備をお願いする。
・全てが便利になる整備ではなく、子ども達の成長を促進することに着目して下さい。

・トイレの件 子ども達にアンケートをとられた事で、子ども達の気持ちがわかってよかったです。
・エレベーターの件 障害のお子さんがいらっしゃる所は仕方がないが、基本はいらないと思います。
・改修工事にどれくらいの金額がかかるのか知りたかった。

・大規模校、三国中、三国小の特別教室は足りているでしょうか。理科室、音楽室等(体育館も)は学級数に応じて複数必要ではないでしょうか？
・三国中の運動場は、生徒数に対して十分でしょうか。部活動や体育の授業で困っているという声も聞きます。
・三国小の廊下は東野小やのぞみ小に比べて、とてもせまいと思います。児童数が多いので、大混雑のようです。心理的にも圧迫感があり、子どもの成長にもいい環境とは思えません。
・三国小の自校式給食は、何年度からでしょうか。また、給食室建設の用地は、大丈夫でしょうか。

・改善は必要と思いますが、財政との関係が説明なし。質問も余りなし。仕事は財政との関係が必要。

・空き教室の利用を地域住民の方と話し合う機会があればいいと思いました。
・トイレの洋式化も早急にして頂きたい。

・立石中学校は大変老朽化が進行しており、早急の改修が必要と思われる。平成31年度からの実施計画の前倒しを進めてもらいたいと思います。
・また、小中一貫校は子ども達にとって大変必要と思いますので、早急に進めてほしいと思います。

(7)ため池・河川・用水路整備事業

・今回のチェックはハード事業が主。別途ため池の使われ方、維持管理にもチェックが必要ではない

4. 施策評価の総合評価において検証が必要とされた事業

(2)コミュニティバスを公共施設巡りから生活支援を目的とする運行に見直し

・班が多く聞きにくい、絞ってほしい。財政との関係の説明がない。事業の質問では問題がある。コミュニティバスと自治会バスは基本的に別と思う。高齢者対象と同じに考えてほしい。

(4)自主避難を含む避難所運営のあり方と災害時備蓄事業のあり方を見直し

・小郡市に引っ越してきて9年になるが、避難訓練などしたことがない。今年小学校でお話を聞いて初めて家族でどこに集合するか話し合った。今後訓練などあればぜひ参加したいと考えている。
・以前病院に勤めていたときも3日間の備蓄食を用意していた。いろいろな施設と提携し、情報を把握しておくことが大事だと思う。

・東日本大震災で被災したが、市役所が大きく被災したために何の情報もなく不安な日々を過ごした。小郡市で防災訓練をしたこともないが、小・中学校の防災意識もとても低く感じており、不安だらけ。

・朝倉の豪雨災害にかかる行政側のとある意見がある。食糧等も必要だが、女性もの下着や生理用品も不足のないように整え、備蓄すべき。防災倉庫は、市内に置くべきだと考える。

・防災リーダーの活用があまりなされていないと思う。まち協の防災部会と防災リーダーの連携がとれていない。ここをつなげ、訓練等や平常にも指揮連絡網等を作っておく。
・備蓄は各避難所に置いておく。賞味期限が5年くらいあると思うが、それは各校区防災部会等の避難訓練のときに実際に使用し、活用して入れ替える様にしたらいい。

(8) 職員研修のあり方と決算をベースに民間経営理念を取り入れた財政計画策定事務の見直し

・予算がとれない事業など市民に丁寧に説明することで理解できると思います。枠配分予算作成に期待します。

5. 市民生活に密着する小郡市が単独に制定した条例、規則、要綱等各種制

(1) 小郡市立中学校の通学区域弾力化制度実施要綱

・特認校制度の現在の利用者に立石中と宝城中に大きな差があるのは単純に距離の問題であればいいのだが、他に原因があれば調査すべきでは。
・特認校を全市にしてしまうと、小規模校がますます、少人数となるのでは。市内、全校にはしないほうがいいのかと思う。

・子どもの数が少なくなったので、検討するばかりではなく地域にそった話し合いをもっとして下さい。

(2) 小郡市立学校施設開放規則

・質問と回答がかみあっていなかった。
・委員の方が言ったように、屋外運動場の利用時間を現在の実態に合わせて規則を変更できないのか？と感じた
・学校施設を地域で活用することを考えても、縦割り行政で生涯学習課と教務課の協働調整が必要とのことで、なかなか進まない。

(4) 小郡市総合振興計画に関する規則

・財政との関係の説明がない。
・みんなの代表のチェックが必要だと思います。
・市民のチェックで事業の責任はどうなるのか？
・専門家の意見を聞く必要もあると思います。

6. その他市長が市民等による検証が必要と判断した事業

(2) 「市民みんなでサービスチェック」事業

・議会のチェック機能を無視している。わざわざこんなことをするのは二重行政では？忙しい時期に税金のムダ。必要なし。

・公募から実施日まであまり期間がなかったので、どんなものだろうと思いました。委員の方々の準備期間を心配しました。
この事業に限らず、他の事業に関しても十分に検討・準備を行って実施してもらいたいと感じました。

(6) 小郡ブランド青大豆「キヨミドリ」栽培・育成推進事業及び七夕の里活性化事業

・筑前町の指導を聞いて欲しい。七夕と大豆のつながりを考えて欲しい。

・まだまだこれからだと思いますが市民・若い方の意見が反映されるものになって欲しいと思いました。

・青大豆は生産農家(若い方)の生産力アップや収入につながれば良いと思います。七夕の里は思いきったイベントをしかけるなどしてアピールする事が出来れば知名度も上がるとおもいます。

(8) 審議会委員等の女性登用率40%達成目標仕組みづくり事業

・審議会が市民に知られていない。

・審議会の目標、任務、人数等を知らせてほしい。

・メンバーの公募をしてみてもどうでしょうか。公募をすれば、そのことについて、関心が高い人が集まる。市民の意識も高まる。

・市民は、市政に関心を持っている。しかし、直接市政に参加することはできない。一般市民が市政に参加できるようにするためにも、審議会へ参加できるようにしてほしい。市民の1/2は女性。40%でなく50%の目標で当然ではないだろうか。

付属資料②

その他意見

- ①多目的ホールに8班を入れて行うのではなく、他の部屋も使って班を分けてやってもよいと思う。(8班が一緒だと雑音で分かりにくい)
- ②今回のような「チェック」を続けていくのが大事だと思う。
- ③終わり頃は少し寒かった。暖房が欲しかった(私のみか?)

・今回の市民チェックの計画、実施は大変すばらしいと思いますが、残念ながら、何を話してあるのかほとんど聞こえず、設営に問題があるのでは。特に、傍聴者は、何も言えないので、意見を求められるのであれば設営をもっと考えてほしい。

・区分が多く聞き取りにくい。

・短い時間なのでいろいろ思いが届かないのでは...

のぞみがおか生楽館に言及すると、クラブハウスが80㎡位で、14サークルが使っている。(また、体育館サークルも含む)
のぞみがおか生楽館はH11年のぞみ小設立と同時に学校内にクラブハウスとして開館し、全国でも大変珍しく社会学習活動を行う、地域と学校が交流できる運営構想としてスタートした。徐々に街もマンモス化して、同館の行事も増々増え、手狭な館内で音楽サークルも行っていることから、H27年に市長、教育長に同館の移設要望書を提出し検討していただいて、場所、美鈴公民館に隣接する市有地8,500㎡を希望している。前副市長と交渉していましたが、今後は見城副市長にバトンタッチしていただき、なるべく早い時期にご検討下さるようお願い申し上げます。